

Explore
France™



**A T O U T
F R A N C E**
France Tourism Development Agency
IN ASSOCIATION WITH



#EXPLOREFRANCE

プレス資料 | **パリ2024 オリンピック・パラリンピック競技大会**



はじめに

「100年前のことです！ わが国で、オリンピック・パラリンピックという偉大な祭典が開催されてから100年を迎えます。私たちはかの大会を思い出し、来年の夏に経験しようとしている歴史的な催しがいかに尊いものであるかを知ることができるのです。観光で来訪される何百万人という方に対しては、これまでご覧になったことのないフランスをお目にかける機会となるでしょう。飲食業やホテル業の従事者、職人など、インバウンドのもてなしに関わる専門性を持った方は、皆、ひとつの指針、つまり、オリンピック・パラリンピックがすべてのひとにとって素晴らしい祝賀の瞬間となることを胸に描き、数年前から大会の準備に取り組んでいます。数々の重大な変革が行われてきました。特に、今大会の大きな特徴であるアクセシビリティについては、障がいのある方がすべてのオリンピック会場にバリアフリーでアクセスできることが強力な指標となることでしょう。

2024年のオリンピック・パラリンピック競技大会の中心には、忍耐やチームスピリットといったスポーツの価値観があります。それは、私たちが皆、己を超え、卓越性を追求することによって、インスピレーションを得られるのだと思い起こさせます。

最後に、オリンピック・パラリンピック競技大会が私たちに感動を与えてくれるとすれば、それは、スポーツという枠をはるかに超えているからです。オリンピック・パラリンピックは、私たちが培ってきた優れた知恵と技を披露する場であり、我が国、その歴史、遺産、そして文化に敬意を表するまたとない機会となります。2024年のオリンピック・パラリンピック競技大会が、忘れられない経験を約束し、誇りを持って世界へと扉を開くものとなりますように！」



中小企業・貿易・工芸・観光大臣
オリビア・グレゴワール
Olivia Grégoire

はじめに

大規模な国際スポーツイベントの開催が続き、フランスはまだまだかつてない局面を迎えています。2023年は、初頭にクールシュヴェル・メリベルでFIS アルペンスキー世界選手権が、次いでラグビーW杯が開催され、2024年にはオリンピック・パラリンピックのパリ大会の開催を控えています。フランス各地のデスティネーションは、いままさに最高のスポーツパフォーマンス、そして、祝祭と歓喜のムードに包まれる数々の催しの舞台となっている、または、これからそうなるうとしているのです。

これらの大規模イベントが生み出している、あるいは、これから生み出すであろうポジティブな効果が、フランスにとって大きな好機となることは言うまでもありません。団結と世界への開放の象徴として、持続可能性の促進、教育と雇用の支援、環境の尊重と保護、文化の多様性の推奨など、幅広い分野に変革をもたらす強力な要因となるものです。観光の面では、フランスのデスティネーションの魅力と質をさらに高め、各大会に携わるプロフェッショナルの優れたノウハウを奨励し、インバウンド客に滞在期間を延長してもらうことで、経済効果を最大限に引き出す機会となることでしょう。

フランス観光開発機構 Atout France は、これらの大会の組織委員会および開催地域と協力し、持続的な遺産の構築に取り組んでおります。フランス観光開発機構のチームは、世界中の人びとに向け、フランスの卓越性と各地の観光資産のプロモーションを強化中です。大規模国際スポーツイベントは、フランスとその文化や自然の遺産を（再）発見し、フランスのアール・ド・ヴィーヴル（生活美学）や美食に親しみ、フランス人と絆を結ぶ、そんな真の旅への招待状となっているのです。

2024年、推定30億人のテレビ視聴者と206のオリンピック代表団が参加するパリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会は、特別なフランスを紹介するまたとない絶好の機会となることでしょう。

フランスで最後に夏季オリンピックが開催されてから100年が経過し、これまでに培われてきた経験やノウハウの粋を集めてパリ2024大会に昇華させ、世界を歓迎する誇りが示されようとしています。パリ2024大会は、フランスがアクセシビリティ、包摂性、持続可能性の面で自らを凌駕するであろう機会であり、またその期待に道筋が示されることでしょう。Atout France は、フランスの観光業界に対し、インバウンドの滞在期間の体験をより充実したものにするための具体的な施策を提案してまいります。

唯一無二のイベントであるオリンピック・パラリンピックの開催を通して未来永劫に受け継がれていくレガシーを築き、世界を歓迎し、皆さまにフランスを知っていただくことを心から嬉しく思います。



フランス観光開発機構 総裁
カロリーヌ・ルブーシェ
Caroline LEBOUCHER



目次 SOMMAIRE

01.

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会をもっとよく知るために



スタートを待ちわびて



数字で見るパリ2024大会



パリ2024大会の斬新な試み



オリンピックで巡るフランス



若さの息吹



大会のアクセシビリティ



時代に即したオリンピック・レガシー

02.

パリ2024大会でフランス発見



パリ2024大会でフランスを発見しよう



オリンピックを満喫する



革新的な観光サービスを活用



フランスの遺産に酔いしれる



フランスの生活美学に親しむ



アウトドアでフランスを発見




ナイトライフを楽しむ



競技会場からの旅のアイデア

プレス問い合わせ 65



01.
パリ2024オリンピック・
パラリンピック競技大会を
もっとよく知るために

すべてがスタートを 待ちわびて

パリで最後に夏季オリンピックが開催されてから100年。フランスはいま、2024年に開催される世界最大のスポーツイベントに向け準備を進めている最中です。2024年7月26日から9月8日まで、15日間のオリンピック競技と10日間のパラリンピック競技が行なわれ、地球上でもっとも活気あふれる中心となるパリに、推定30億人のテレビ視聴者の注目が集まります。エッフェル塔の足もと、グラン・パレ、アンヴァリッド前、コンコルド広場、ヴェルサイユ宮殿、セーヌ川など、いずれも思いがけない会場で競技が開催されます。パリ2024大会は、環境と社会に責任あるものとして、可能な限り多くの人々に開かれ、包摂性、男女平等、アクセシビリティの問題を組み入れた参加型のイベントであることを目指しています。

熱戦の舞台となるフランス各地のデスティネーションでは、フランスの遺産がこの国を象徴するスポーツ競技会場となってお目見えします。ポルドーからサンティエヌまで、リヨンからマルセイユまで、ニースからナントまで、リールからシャトールー、そして、波乗りの聖地タウポ（チョープー）の波がサーファーを迎えるフランス領ポリネシアまで、それぞれの地域がこの壮大な大会に向けて結束しているのです。

「オリンピック・パラリンピックの大いなる志は、フランスのベストを世界に示すことにある」

パリ2024大会組織委員会会長
トニー・エスタンゲ
Tony Estanguet

1300万枚のチケット
(数十万人の観客がセーヌ川沿いの
オリンピック開会式に参加)

15 日間にわたり、
パリを含むフランス本土で
オリンピック競技会を開催

10 日間
にわたり、パラリンピック
競技会を開催

16 の
パリを含む
フランス本土の**都市**

1 海外準県
(タヒチ)

地方自治体の関与

3,000 以上の地方自治体を含む、
4,000 以上の地域に “パリ2024大会開催地” ラベルを
授与

1,000 以上の地域が (大会準備地区として) 関与

メディア報道の規模

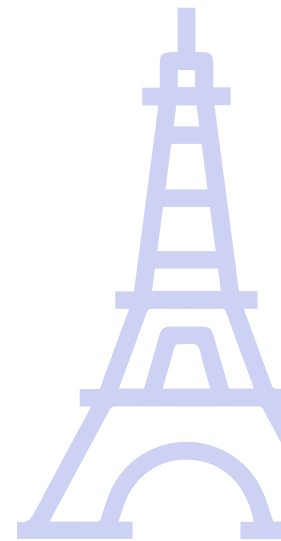
20,000 人の
ア krediteーション保有ジャーナリスト
6,000 ~ 7,000 人の
ア krediteーション非保有ジャーナリスト

45,000 人の
ボランティア

約 **30** 億人の
テレビ視聴者



**100%男女同数で行われる
初のオリンピック競技会**



オリンピック競技会

- **32** 競技
- **48** 種別
- **39** の競技会場
- **10,500** のアスリート

2024年7月26日 ~ 2024年8月11日

パラリンピック競技会

- **22** 競技
- **23** 種別
- **17** の競技会場
- **4,400** のアスリート

2024年8月28日 ~ 2024年9月8日

パリ2024大会の 斬新な試み

比類なき文化遺産、建築遺産を有するパリを舞台に、フランスとその歴史の粋を集めたとびきりのショーが繰り広げられようとしています。首都に滞在し、競技を観戦し、この唯一無二の祭典の興奮に包まれパリを発見するまたとない機会となることでしょう。

スタジアムの外で行われる開会式

オリンピックの歴史上、開会式がこれほどその名にふさわしいものとなることはなかったでしょう。**世界に開かれ、セーヌ川に開かれ、あらゆる人びとに開かれる**のです。2024年7月26日、セーヌ川沿い6キロメートルにわたって史上最大のオリンピック式典が開催されます。数十万人の観客の参加が見込まれ、**入場料は一部を除いて無料**となっています。

パラリンピックの開会式は、2024年8月28日にシャンゼリゼ通りからコンコルド広場にかけて行われます。

スタジアムの外で開催される2つの盛大なセレモニーは、大らかで大衆に開かれたものであり、**祝祭と前衛と調和和合の精神**のもと、パリの街とその象徴的なモニュメントの数々を誇らかに彩ることでしよう。

スポーツと文化・歴史遺産の競演

思いもよらない空間でスポーツをお楽しみいただきたいという願いから、ヴェルサイユ宮殿、エッフェル塔、コンコルド広場、サン＝カンタン＝アン＝イヴリーヌのヴェロドローム国立競技場 (Vélodrome national de Saint-Quentin-en-Yvelines)、タウポ (チョープー) の波、エランクルの丘 (la colline d'Elancourt)、マルセイユのマリーナといった、**パリやフランス各地の名高い文化遺産やスポーツ遺産**がさまざまな競技の舞台となります。

アスリートをとりにく舞台は彼らのパフォーマンスを輝かせ、**スポーツとフランスの文化・歴史の遺産**が思いがけない形で融合した、誰もがかつて見たこともない情景を生み出してくれることでしよう。



持続可能な大会に…

パリ2024は、大会開催に伴う資源やエネルギーの排出量を半減させ、大会が排出する以上の排出量をオフセットすることを主要な目標として掲げています。

レガシーと持続可能なインフラ：

95%

既存のインフラ（スタッド・ド・フランス、ベルシー・アリーナ、ローラン・ギャロスなど）または仮設のインフラ（パリの遺産）の95%が排出抑制に活用される。

100%

仮設資材は100%再利用、またはリサイクルされる。リサイクルの可能性と持続可能性を考慮し、コンクリートの含有成分が検討された。

80%

公共投資の80%をセーヌ＝サン＝ドニ県の再開発に投入

100%

2024年以降、大会施設の100%を地元住民に譲渡

20

イル＝ド＝フランス地方の20の公共スポーツ施設を改修

オリンピック・パラリンピック選手村とメディア村のためのエコ地区：

2,220

大会終了後、2,200戸の住居として生まれ変わる選手村

1,300

大会終了後、1,300戸の住居として生まれ変わる選手村

…取り組みは食事に至るまで

オリンピック・パラリンピックは、アスリートの努力と観客が集うスペクタクルの祭典であると同時に、**フランス各地の味覚の祭典**でもあります。**1,300万食**の提供が予定されており、**短いサプライチェーンで運ばれる**選りすぐりの素材によって、フランスのすべての地方の食が紹介され、会場ごとに異なる食体験をいただけます。

6つの主要なコミットメントと60のサブコミットメントにより、パリ2024大会は、**食の質の問題**についてはもちろんのこと、**環境への影響の問題**にも取り組むことを決定しています。たとえば、植物由来の食品は重要な位置を占め、観客に供される料理の60%がベジタリアン食となります。これは**前回の五輪と比較し2倍**にあたります。

食品は**100%認証済み**のものとされ、**80%がフランス産**、**25%が各会場から250km以内の地域産**、**30%がオーガニック食品**を予定しています。

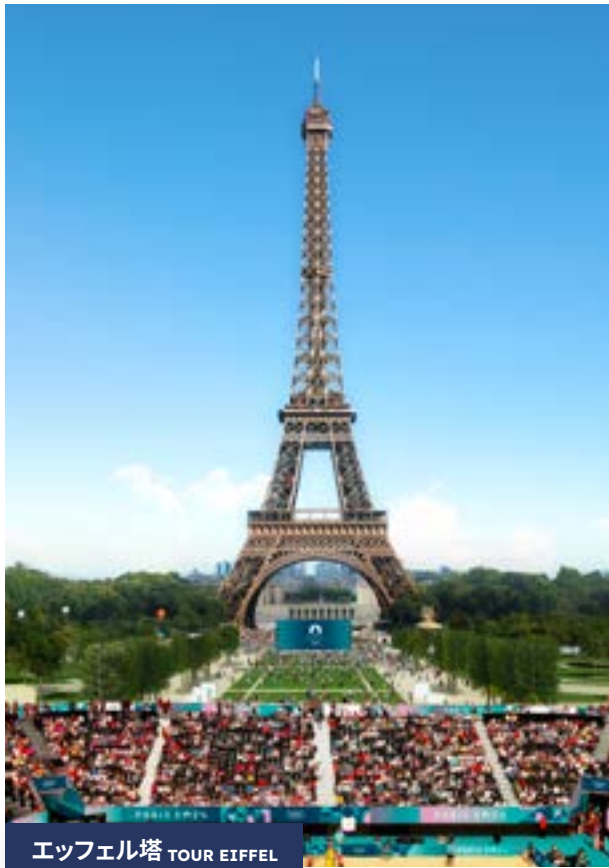
本大会はまた、**使い捨てプラスチックの使用を半減**させ、食べきれなかった食品を堆肥化またはメタン化によって回収することにも取り組みます。



オリンピックで巡る フランス

パリ2024大会は、フランスの文化遺産、自然遺産、スポーツ遺産を誇らかに讃える機会となることでしょう。フランスの遺産が、大会を唯一無二のものにするのです。

文化遺産



エッフェル塔 TOUR EIFFEL

パリの最も象徴的な場所でありシンボルであるエッフェル塔。ビーチバレーボールとブラインドサッカーの対戦が行われます。



グラン・パレ GRAND PALAIS

1900年の万国博覧会のために建てられた歴史的建造物。テコンドー、パラテコンドー、フェンシング、車椅子フェンシングの対戦が行われます。



アンヴァリッドの遊歩道 ESPLANADE DES INVALIDES

ルイ14世によって建てられたかつての廃兵院（軍病院）で、現在は軍事博物館としてフランスの軍事史料が展示され、ナポレオンの墓もあります。アンヴァリッド前の遊歩道ではアーチェリー、パラアーチェリーが行われるほか、マラソンやロードサイクリングのスタート地点に設定されています。



ヴェルサイユ宮殿 CHÂTEAU DE VERSAILLES

ルイ14世によって建てられた宮殿。歴史に深く刻まれる宮殿はフランス王家の象徴であり、乗馬、パラ乗馬、近代五種競技が行われます。



**コンコルド広場
PLACE DE LA
CONCORDS**

かつての革命広場は、フランス国民の和合への祈りを込めてコンコルド広場に改名されました。広場では3x3バスケットボール、BMX フリースタイル、ブレイキング、スケートボードなどの都市型スポーツ競技が行われるほか、パラリンピック競技大会の式典、コンサート、文化関連の展示、スポーツデモンストレーションなど、一般大衆に開かれたイベントが開催されます。



シャン・ド・マルス CHAMP DE MARS

エッフェル塔のふもとにある広大な公園。柔道、パラ柔道、フリースタイルレスリング、グレコローマンレスリング、車椅子ラグビーの対戦が行われます。

自然遺産



タウポ TEAHUPO'O

世界で最も美しい波に数えられるタヒチ、タウポ（チョープー）の波。サーフィン競技が行われます。



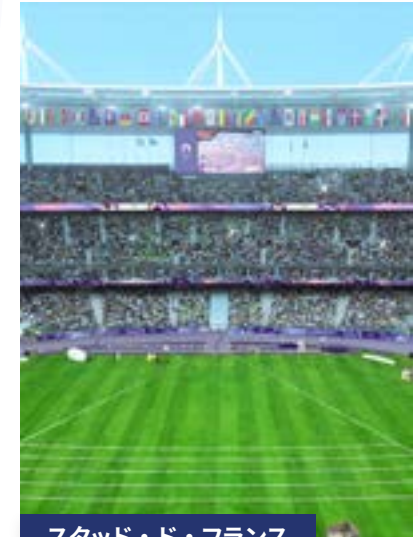
マルセイユのマリーナ MARINA DE MARSEILLE

マルセイユ港内ではルーカスブラン（Roucas Blanc）海洋競技場が改修され、オリンピックマリーナが目の目を見ます。セーリングイベントが行われます。



**パルク・デ・フランス
PARC DES PRINCES**

有名サッカー クラブ、パリ・サンジェルマンFCがホームスタジアムとするサッカーの殿堂。



**スタッド・ド・フランス
STADE DE FRANCE**

1998年のサッカーW杯のために建設されたフランス最大のスタジアム。陸上競技、パラ陸上競技、7人制ラグビーの対戦が行われます。

スポーツ遺産



**スタッド・ローラン・ギャロス
STADE ROLAND GARROS**

クレーコートを備えた象徴的なスタジアム。テニス、車いすテニス、ボクシングの対戦が行われます。



**サン＝カンタン＝アン＝イヴリーヌ
国立ゴルフクラブ
GOLF NATIONAL DE SAINT-QUENTIN
EN YVELINES**

伝説的なコースを有するゴルフクラブ。18ホール「アルパトロス」と9ホール「オイズレット」で構成され、ゴルフ競技が行われます。



**アレナ・ド・ベルシー
ARENA DE BERCY**

特徴的なピラミッド形の建物で知られるアレナ（アリーナ）。バスケットボールと車椅子バスケットボールの決勝戦が行われるほか、体操競技、トランポリンの競技会場となります。



**スタッド・イヴ＝デュ＝マノワール
STADE YVES-DU-MANOIR**

1924年パリ大会のオリンピック スタジアム。開会式と陸上競技の会場となりました。2024年は、フィールドホッケーの対戦が行われる予定です。

若さの息吹



パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会は、現代的でダイナミックな性格を持ち、時代に即した destinations としてフランスを国際舞台で紹介する特別な機会と言えます。

2024年パリオリンピックのプログラムには、サーフィン、クライミング、スケートボード、さらにはブレイキンといった、華やかな種目が新たに追加されました。

パリ2024大会は、**私たちの時代と結びついたスポーツ**に焦点を当てることで、**新しい世代のスポーツの実践、健康でアクティブなライフスタイルの受容**を促すことを望んでいます。

スポーツクライミング： 垂直運動の戦い



ル・ブルジェ (Le Bourget)、イル＝ド＝フランス

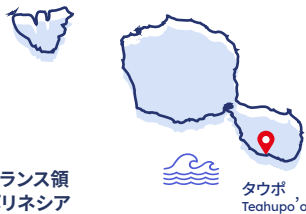
若さと現代性、多様性を体現するスポーツクライミングは、自然に囲まれて、都会で、あるいは屋内でも行われています。1986年、リヨン近郊のヴォー＝アン＝ヴラン (Vaulx-en-Velain) で最初の大会のひとつが開催されて以来、フランスはスポーツクライミングの目覚ましい隆盛を経験してきました。それというのもフランスはスポーツクライミングにふさわしい自然の名所に事欠かないためです。最も壮観なクライミングスポットとしては、**ビューの断崖** (la falaise de Buoux)、**アノとヴェルドン渓谷の遺跡** (les sites d'Annot et des Gorges du Verdon)、**セユーズの断崖** (la falaise de Ceüse)、**ペンの断崖** (Pen-Hir)、**フォンテーヌブロー** (Fontainebleau)、**マルセイユのカランク** (Calanques) などが挙げられます。スポーツクライミングは**イル＝ド＝フランス地方のル・ブルジェ**のクライミング場 (site d'escalade du Bourget) で開催されます。

サーフィン： 聖地の波上で舞い踊る



タウポ、フランス領ポリネシア

世界中で、とりわけ若者の間で広く行われているサーフィンは、**空中アクロバットと調和のとれたスライドの組み合わせ**が観衆を魅了し、賞賛を呼び起こします。フランスの大西洋岸には、**オスゴール** (Hossegor)、 **Biarritz** (Biarritz)、**ラカノー** (Lacanau)、**ラ・トルシュ** (La Torche) といった名高いサーフスポットが数多くありますが、2024年パリオリンピックのサーフィン競技の開催地に選ばれたのは、フランス領ポリネシアの**チョプー**村です。打ち寄せる波と大自然の美しさで知られるサーファーの聖地です。



フランス領
ポリネシア

タウポ
Teahupo'o

スケートボード： 若さで駆け抜ける！



コンコルド広場、パリ

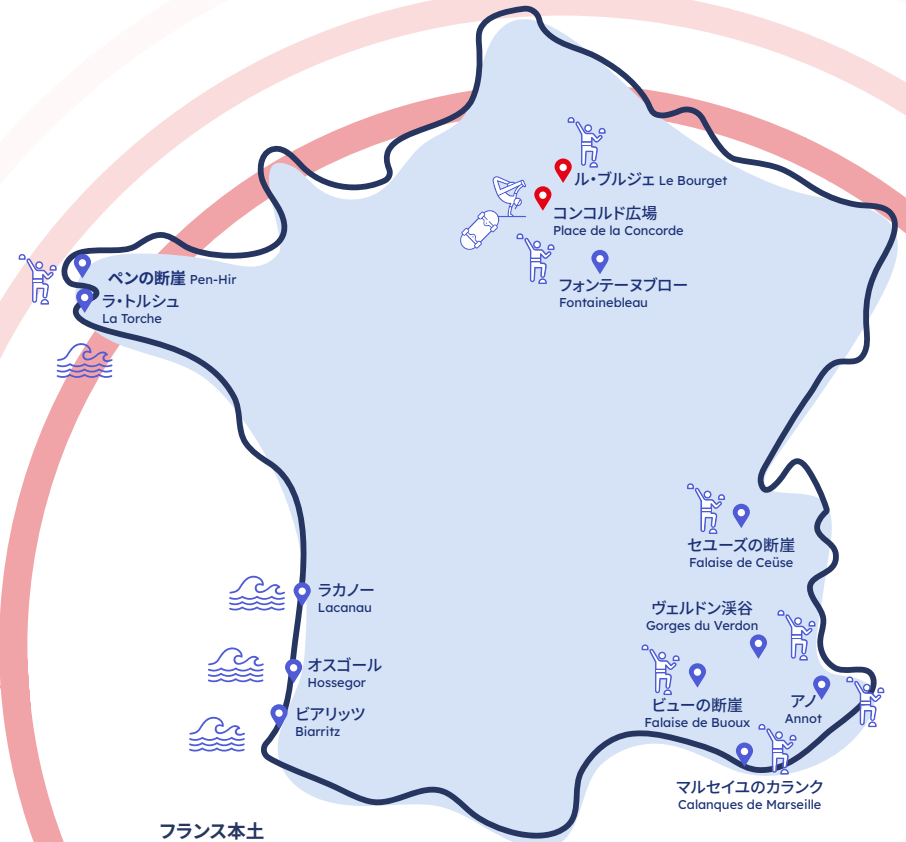
スケートボードはアーバンスポーツの代表格であり、その創造性、スタイル、自由さのユニークな融合が人びとを魅了します。2020年東京オリンピックでは、女子種目で若干13歳の日本人スケートボーダー、西矢椛が優勝し、世界中がその歴史的瞬間に注目しました。パリ2024大会では、コンコルド広場で2つのスケートボード競技が予定されており、特に**若い観客**にとっては**息を飲むようなスペクタクル**を目の当たりにできることでしょう。

ブレイキン： 型破りの新常識



コンコルド広場、パリ

ブレイキンは単なるスポーツをはるかに超えた、**アート、ダンス、音楽が交差する真の表現形式**と言えます。世界中で普及する以前、90年代のアメリカのヒップホップ文化に起源を持つブレイキンは、ダンサーたちのアクロバティックな創造性とリズムに合わせた動きの習熟度を競い合うバトル形式で行われます。2024年パリオリンピックでは、**初めてブレイキン**が注目されることになります。コンコルド広場にて。



フランス本土

オリンピック会場

フランスの伝説的スポット

大会の アクセシビリティ

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会は、すべてのオリンピック会場において障がいのあるひとが妨げられることのないアクセスを提供すること、またソフトモビリティを整備することにより、都市とそのインフラのアクセシビリティを向上させるという目標を掲げています。パリ2024年大会がすべてのひとにインクルージョンとアクセシビリティがもたらされる時代の象徴となるよう、さまざまな対策が講じられてきました。

📍 パリと周辺地域 PARIS ET SA RÉGION

環境に優しい交通手段とソフトモビリティ

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会では、自転車が脚光を浴びることになるでしょう。実際、サイクルツーリズムは、フランスの観光市場、特にパリとその周辺地域でひととき成長の目覚ましい新分野のひとつです。現在、パリ市民は1,000kmを超える自転車道路網の恩恵にあずかっていますが、2024年までには、イル＝ド＝フランス地方のすべて競技会場が自転車アクセスできるようになります。60kmの「オリンピック街道 (Olympistes)」、10,000台分の駐輪場、シェアサイクル「ヴェリブ (Vélib')」は3,000台が追加され利用可能になります。

目標は、自転車による移動が、大会期間中の移動全体の20%を達成することです。パリとポルドーを結ぶフランス最長のサイクリングルートである「スカンディベリック (ユーロヴェロ3号線) (Scandibérique (EuroVélo 3))」など、フランス全土で、主要都市と各オリンピック会場を結ぶサイクリングルートが整備されます。その他にもパリとノルマンディー地方を経由して海を結ぶ「セーヌ・ア・ヴェロ」(Seine à Vélo) や、西部地方を巡り、フランスで最も美しい場所のひとつであるモン・サン・ミッシェル (Mont-Saint-Michel) の麓に華麗にゴールする「ヴェロセニー」(Véloscénie) などの緑道があります。



移動制約者を輸送する 優先レーンの開発



パリ2024大会は、都市のアクセシビリティを加速させる強力な推進力です。パリ市は、パリ市経済開発公社 (Paris & Co) による、障がいのある方と介護者のための技術的・社会的イノベーションに特化したインキュベーター「HUA (Handic'Up Access)」の設立を支援しました。障害のある方を最良の条件で迎えるため、福祉車両などために185kmの「オリンピック専用レーン」が確保されます。また、移動制約者、特に車椅子利用者のために専用の公共交通機関も確保されます。パリ首都圏の公共交通機関を統括する「イル＝ド＝フランス・モビリティ」(Ile-de-France Mobilités) はまた、パリの8駅と首都圏高速鉄道RERのロサ＝パルク駅 (パリ19区) から、車椅子利用者とその同伴者4名まで乗車可能な150台のシャトルバスを運行すると発表しました。

環境に優しい観光輸送



環境への配慮は観光輸送についても進められています。パリのインバウンド事業者は即時行動の重要性を認識し、より環境に優しいサービスを来訪者に提供すべく尽力しています。「ヴェデット・ドゥ・パリ」(Vedettes de Paris)、「ヴェデット・デュ・ポンヌフ」(Vedettes du Pont Neuf)、「ヨット・ドゥ・パリ」(Yachts de Paris)、「グリーン・リバー・クルーズ」(Green River Cruise) といったサステナブルに楽しむセーヌ川の水上散歩やディナー、あるいはウルク運河 (canal de l'Ourq) の「マラン・ドゥ・ドゥース」、市内を巡るならば100%クリーンなエネルギーで走る「トゥートバス」(Tootbus)、ヴェロ・タクシー「タートル」(Turtle)、電動キックボードなど、電動モビリティが注目を集めています。パリのインバウンド事業者は、今日の環境問題に対応すべくあらゆる手段を講じているのです。





📍 ボルドー BORDEAUX

ソフトモビリティで楽しむ ボルドーのスローツーリズム

世界自転車都市指数12位、フランス国内では第2位にランクされるボルドーは、サイクリストの安全を確保し、サステナブルなソフトモビリティの整備が行き届いていることから、[サイクリストに優しい世界の都市](#)トップ10にも数えられています。ボルドー市内を散策するのに最適なオプションは多数あり、悪天候の折は、トラムや電気バスも利用できます。河岸には緑地が整備され、歩行者、サイクリストそれぞれに向けて美しい散策路が提供されています。

すべてのひとのためのデスティネーション、 ボルドー

観光ラベル「観光とハンディキャップ」(Tourisme et handicap) に加え、フランスで初めて「すべてのひとのためのデスティネーション (Destination pour tous)」のラベルを授与された都市であるボルドーは、[すべてのひとに質の高い観光を提供](#)するための取り組みを強化しています。大活字、FALC(やさしいフランス語)、点字のツアーガイドの貸し出しや、ユネスコ世界遺産での適応したポイントラリーなどがあります。ソフトモビリティの面では、移動制約者や視覚に障がいがある方が利用しやすいよう、トラムやバスが改良されています。



📍 リヨン LYON

リヨンシティ・カードは まるごとリオンを楽しむフリーパス！

リオン観光に欠かせないフリーパスといえば[リヨンシティ・カード](#) (Lyon City Card) です。1日、2日、3日、4日間有効のリヨンシティ・カードは、フランスがガリアと呼ばれた時代の首都であったリオンの文化に出会うパスポートとなります。市内の24の美術館とその常設展、ソーヌ河 (la Saône) クルーズ、リオンの遺産の至宝を発見するガイド付きツアー、市内公共交通機関が乗り放題になるなど、リオンを自由自在に巡ることができます！

リオンから2時間以内でアクセスできるこの地方で 最も美しいデスティネーション

リオンから、オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ (Auvergne-Rhône-Alpes) 地方の主要な観光地へは、2時間以内でアクセス可能です。快速・普通列車 TERの直通路線が充実しているほか、駅では24時間365日の無料アシスタンスサービスを提供しており、障がいを持つひととも乗り継ぎの時に安心して利用することができます。

📍 マルセイユ MARSEILLE

マルセイユの真骨頂をフリーパスで

マルセイユ市は、市内の観光をご自身のペースでお楽しみいただける24時間、48時間、72時間有効の[シティバス・マルセイユ](#)を提供している。このフリーパスには、公共交通機関の乗り放題、数々のアクティビティへの参加、ショッピングでの割引、オファー、試食などが含まれます。

📍 ニース NICE

すべてのひとに向けた移動手段 モビラジュール

[モビラジュール](#) (Mobil'Azur) は、運動障がいや視覚障がいを持ち、通常の公共交通機関を単独または同伴で利用が困難な方のためのオンデマンド公共交通サービスです。ニース・コートダジュール地方に一時的に滞在される方もご利用いただけます。サービスは年中無休。大会期間中、誰もが気に入りの選手の応援に駆けつけることができます。

サービスのご利用には、所定の手続きが必要です。詳細のお問合せは、mobilazur@lignesdazur.frまで。



📍 リール LILLE

居心地のよさは 移動の快適さにまで

リール都市圏が誇る大きな資産のひとつは[公共交通網](#)です。複数路線あるメトロ、トラム、バスがエリア全体を網羅しています。ハンドボールとバスケットボールの一部の競技が行われるスタッド・ピエール・モーロワ（Stade Pierre Mauroy）は、いずれの交通機関からもアクセスしやすく、大会期間中は運行数が増加されます。自転車レーンが整備され、シェアサイクルが導入されており、スタジアム前には1,000台以上の安全な駐車スペースがあるため、サイクリストも安心して移動することができます。

万人に優しい ヒューマンスケール都市

誰もが移動しやすいように、バス停やメトロの駅はすべて車椅子やベビーカーを利用できるようになっています。耳の不自由な方は、[「アクセオ」](#)（Acceo）を利用して口頭での対話時の瞬時の音声の書き起こし、フランス手話によるリアルタイム通訳、ビデオで補完されたフランス語音声によるコミュニケーションが可能です。

📍 ナント NANTES

誰もがスタジアムへ

2024年オリンピックの会場となるスタッド・ドゥ・ボージョワール（Stade de la Beaujoire）には首都圏公共交通網が通っています。大会期間中は、スタジアムへのアクセスを容易にするために公共交通機関の運行が調整され、駐輪場も増設されます。スタジアムに乗り入れる路線は、低床車両、スライドドア、スロープ、音声・映像メッセージにより、誰もが利用しやすいものとなっています。

ナントの公共交通機関は 週末無料

毎週末、ナント市内の公共交通機関はすべて無料となり、誰もが自由に移動することができます。



📍 シャトールー CHÂTEAURoux

スタート前に自転車で ウォーミングアップ

シャトールー市の中心部と国立射撃場（Centre National de Tir Sportif (CNTS)）を15分足らずで結ぶ自転車専用レーンのネットワークを利用して、オリンピックを応援しに出かけましょう。スポーツレジャーとオリンピック観戦を両立する素晴らしい方法です。

自動運転シャトルバスで オリンピック会場へ

シャトールー市は2024年オリンピックに合わせ、身体の不自由な方が利用できる自動運転シャトルバスを運行予定です。バスは市の中心部から国立射撃場までの6kmを結んで走行します。

時代に即した オリンピック・レガシー

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会は、映えある国際スポーツイベントであるということに留まらず、イル＝ド＝フランス地方の、そしてフランスのすべての人びとにとって具体的かつ大きな利益をもたらすという野心的なビジョンを掲げています。大会の一環として計画されるプロジェクトは、モビリティ、都市開発、環境のいずれに関わるものであれ、永続的な影響を与えるものとして大会後に修復され、レガシーとして残され、住民とインバウンドの双方に恩恵をもたらすものとなるでしょう。



📍 イル＝ド＝フランス地方 ÎLE-DE-FRANCE

グラン・パリ・エクスプレスで 観光地へのアクセス向上

「[グラン・パリ・エクスプレス](#)」(Grand Paris Express) は、ソシエテ・デュ・グラン・パリ (Société du Grand Paris) が主導するヨーロッパ最大のインフラプロジェクトです。2030年までに、200km以上の自動運転メトロ路線と68の新駅が誕生する予定です。パリ2024大会事業の一環として、地下鉄14号線がこのネットワークの最初の路線として運行され、世界中から訪れる人びとがパリ・オルリー空港から主な競技会場にアクセスできるようになります。

大会以外の面では、グラン・パリ・エクスプレスは、首都の中心部を bypass せずにイル＝ド＝フランス地方の各地をダイレクトに結ぶ新路線を多数提供する予定です。



📍 サン＝ドニ SAINT-DENIS

オリンピック水泳競技場： 環境に配慮した模範的建造物

水球、飛び込み、アーティスティックスイミングの競技が行われる[サン＝ドニのオリンピック水泳競技場](#)は、主に有機系建築材料を用いて設計され、内装はリサイクルおよび再利用された製品で設えられ、屋根はソーラーパネルで覆われます。持続可能なイノベーション、建物の技術基準やエネルギー消費性能におけるフランスの卓越したノウハウが示されることでしょう。

大会終了後のオリンピック水泳競技場は、地元のスポーツ関連クラブやアソシエーションの練習場として、またフランス陸上競技連盟のダイビングセンターとして使用される予定です。

📍 パリ PARIS

オープンウォーター水浴場としての セーヌ川の門出

トライアスロン、パラトライアスロン、オープンウォータースイミングの競技は、エッフェル塔とアンヴァリッドの間のセーヌ川で行われます。イル＝ド＝フランス地方に再び泳げる河川を取り戻す長いプロセスのきわめて重要な一歩となります。

2024年大会の主要なレガシーである[オープンウォーター水浴場](#)は、河川を住民の手に取り戻し、水泳を学ぶ意欲を育み、今後ますます暑くなる夏季に対して都市を強くしてくれることでしよう。国とイル＝ド＝フランスの関係各所は、オリンピック後、首都の5か所を含む、パリ広域圏の16の地方自治体に23の水浴場を開設することを目標に、水質改善に取り組んでいます。



アディダス・アリーナによる ラ・シャペル地区の活性化

2024年2月、[アディダス・アリーナ](#) (Adidas Arena) がポルト・ド・ラ・シャペル (Porte de la Chapelle) にオープン予定です。パリ大会の一環として建設される主要建造物のひとつであるアリーナは、界限を一変させる地域住民のためのレガシーとなります。オリンピックのバドミントンと新体操、パラリンピックのパラバドミントンとパラ重量挙げの4種目が開催されます。

アディダス・アリーナはその後、コンサート、スポーツ、文化イベント、展示会の会場として改修され、地域住民のために生活やさまざまな活動のための空間も提供されます。

さらにアディダス・アリーナ前の遊歩道は、1924年にパリで開催された初の女子オリンピックの運営を主導したスポーツウーマンにちなみ、アリス・ミリア (Alice Milliat) と命名されます。



📍 サン＝ドニ SAINT-DENIS

再開発により 生活と観光の新しいエリアへ一新

サン＝ドニ・プレイエル (Saint-Denis Pleyel) 地区は、2024年大会の選手村として15,000人のアスリートの本拠地となります。選手村がパリ広域圏の主要なオリンピック競技場に近い地理的位置にあることは、とても重要な意味を持っています。選手村の鍵は2024年3月にパリ2024大会組織委員会に引き渡される予定であり、現在、大規模な建設と改修の工事が進められています。2024年10月からは、2220戸以上の住宅が建設され、内務省を含む多くの企業が入居する予定です。

📍 ル・ブルジェ LE BOURGET

生活とスポーツの新たな地区へ開発

メディア村は、現在、セーヌ＝サン＝ドニ県のデュニー、ル・ブルジェ、ラ・クールヌーヴの各市にまたがるエール・デ・ヴァン地区で具体化しています。大会期間中、3000人以上のジャーナリストや技術者がここに滞在します。ル・ブルジェのパーク・デ・エキスポジション (Parc des Expositions) には、海外のテレビとラジオのスタジオが設置される重要拠点となります。メディア村の宿泊地は大会後、セーヌ＝サン＝ドニの新住民へと引き継がれ、さらに他の住宅も建設されて2025年までに6000戸を超える新たな地区が誕生します。生活に関連したさまざまなスペースや施設もオープンする予定です。



📍 コロンブ COLOMBES

スタッド・イヴ＝デュ＝マノワールの 歴史を振り返る

スタッド・イヴ＝デュ＝マノワール (Stade Yves-du-Manoir) が、1924年のパリ大会以来100年ぶり、史上2度目のオリンピック競技場となります。大会後もさまざまなスポーツ活動の場として永続するよう、オー＝ドゥ＝セーヌ県は設備を新しく整備するプロジェクトに着手しました。



📍 ボビニー BOBIGNY

PRISME：ヨーロッパ最大のパラスポーツ拠点

PRISMEこと首都圏インクルーシブスポーツ・リファレンスセンターが、ボビニー (Bobigny) のラ・モット県立競技場 (Stade départemental de la Motte) に誕生します。パラスポーツに特化したこの新しい拠点は、ヨーロッパで唯一のもので、2024年10月に一般公開されます。パリ2024大会の期間中は、パラリンピックの練習場として使用されます。



02. パリ2024大会で フランス発見

パリ2024 オリンピック・ パラリンピック競技会で フランスを発見しよう

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界中から訪れる人びとにフランスの素晴らしさを発見していただく招待状のようなものです。アール・ド・ヴィーヴル（生活美学）、サヴォアフェール（伝統の技と知恵）、歴史的遺産、活気ある文化、戸外のアクティビティ、エキサイティングなナイトライフ…。フランスはあらゆる人びとを惹きつけるさまざまな魅力を備えています。次のページでは、イノベーション、持続可能性、スロートーリズム、ソフトモビリティの台頭などで注目されるアイコンック体験や人里離れた場所で楽しむ体験などをご紹介します。2024年夏、正真正銘のフランス、親しみに満ちたフランス、驚きに満ちたフランスが明らかになり、世界中から訪れる人びとをさまざまな体験へと誘うことでしょう。

革新的な 観光サービスを活用

 **パリと周辺地域**

PARIS ET SA RÉGION



**#ExploreParis, パリ観光に革命を起こす
Webプラットフォーム**

2018年以來、[#ExploreParis](#) はパリ広域圏の全域でありきたりではない観光ツアーを多数ご案内しています。ツアー予約サイト [Exploreparis.com](#) は、瞬間にパリのオルタナティブツーリズムに欠かせないリファレンスとなりました。情熱的なガイドに導かれて珍しいスポットを発見する、知る人ぞ知るとっておきのツアーをご紹介します。



**サン＝ドニ大聖堂の尖塔：
驚異の再建工事に迫る最先端技術による
革新的な見学ツアー**

[サン＝ドニ大聖堂](#)の尖塔の再建を通し、建設者の熟練した技術を紹介する「[尖塔を追え](#) (Suivez la flèche)」プロジェクト。来訪者は驚きの再建工事が行われている現場に身を置くことができます。2024年春からは「[アール・グラフィック&パトリモヌ](#)」(Art graphique & patrimoine) 社との提携で開発されたデジタル・リソースが、この並外れた再建工事の運営管理とプロモーションに使用されます。すべての見学者に尖塔の歴史に迫る没入型体験を味わってもらうため、デジタル・アニメーション映像、360度の音と光のショー、インタラクティブな体験を提供する見学ツアーとなっています。



オー＝ド＝フランスで人気沸騰、 ビール醸造所巡り

ビールの郷、と呼ぶにふさわしいオー＝ド＝フランス地方。けれども国境を接するベルギーの影に隠れ、この遺産はほとんど知られていません。オー＝ド＝フランス最初のビール醸造所ツアー会社である「[エシャッペ・ビエール](#)」(l'Échappée Bière) は、人びとに発見されるべき宝である醸造家やビール、熟練した技術にスポットライトを当て、10年前から案内役を務めています。

リールはまた、ビール醸造所の認証ラベル「ビール遺産」(Héritage Bière) の実現への取り組みや、一般客に向けたビールの試飲に着手したフランスで最初のデスティネーションでもあります。

📍 オー＝ド＝フランス地方

HAUTS-DE-FRANCE



観光でリールの街を再発見

ヨーロッパの主要都市であるリールは、豊かな文化を有し、革新的で唯一無二の観光を楽しむことができます。見事なウォールアートやかりそめに壁を彩る作品が街に描かれるようになり、[ストリートアートツアー](#)に注目が高まっています。この新たなアートを鑑賞するならば、ルーベ (Roubaix) でストリートアートツアーに参加するのがおすすめです。伝説的な名車シトロエン 2CVやライセンスなしで乗れるボートで、一味違った散策を楽しむのもいいでしょう。リールの中心や、街を縁どって流れる運河の違う表情を発見することができます。



ウォータースポーツ： レ・サーブル・ドロンヌでのフォイルサーフィン

ヴァンデのレ・サーブル・ドロンヌ (les Sables d'Olonne) では、ウォータースポーツ愛好家たちがフォイルサーフィンを楽しんでいます。サーフスクール「オハナ・サーフ」(Ohana Surf) は、誰でも安全にフォイルサーフィンに挑戦できる方法を開発しました。初めはバーと大きなボード、コルクで覆ったフォイル（水中翼）を備えたボートから挑戦します。その後、ハンドルを握ってひとりで海面を飛び始めるのです。



ボージャンシー城の デジタルアートセンターの展示

ボージャンシー城 (Le château de Beaugency) のデジタルアート・センター (Centre d'Art Numérique) は、1000平方メートルを超える歴史が息づく場所を舞台に、「芸術、科学、遺産」をテーマにしたデジタル作品の常設展示を行なっています。城館の見学に新たな趣向を添える革新的なソリューションをお楽しみください。



📍 ペイ・ド・ラ・ロワール地方

PAYS DE LA LOIRE



新しくてヴィンテージな バスホテルの旅

旅するホテルに泊まってアンジュー (Anjou) や自然豊かなヴァンデ (Vendée) のワインを発見しに出かけましょう。クラシカルで新しいものがお好きならば「リー・ニュゼロ」(LigneZero) が提供する、オリジナリティあふれる旅をお楽しみいただけるはず。旅するホテルとして快適に改造された戦後のレトロバスは、電力を供給するソーラーパネルを搭載しています。醸造所を訪ね、テイスティングを楽しみ、バスでロワール川散策し、ブドウ畑に囲まれて過ごすまたとない機会となることでしょう。

📍 サントル＝ヴァル・ド・ロワール地方

CENTRE-VAL DE LOIRE



アンドル渓谷で排出ゼロのバイク旅： 挑戦と採用

アンドル渓谷 (Vallée de l'Indre) には15台を超える水素を使った燃料電池自転車があります。数滴の水と少しの熱だけで温室効果ガスを排出せずに移動できるのです。ブレモン (Bréhémont)、またはアゼール＝リドー (Azay-le-Rideau) から、風光明媚な渓谷でこの電動アシスト自転車を試してみませんか。



サン・テティエンヌ、 ユネスコ・デザイン都市

ここではデザインが第二の天性であり、この街たらしめている証なのです。「デザイン都市」サンテティエンヌは、フランスで唯一、ユネスコが認定した創造都市ネットワークのデザイン都市でもあります。ここへ来たらずい、リュディ・リチオッティ (Rudy Ricciotti) からル・コルビュジエ (le Corbusier) を経てノーマン・フォスター (Norman Foster) に至るまで、街の偉大な建築を紹介するシテ・デュ・デザイン (Cité du design)、近現代美術館 (Musée d'art moderne et contemporain)、芸術産業博物館 (Musée d'art et d'industrie) を訪れてください。サン＝テティエンヌから目と鼻の先にあるフィルミニの建築作品群 (Firminy-Vert) は、ル・コルビュジエの世界で2番目に偉大な業績であり、建築愛好家や好奇心旺盛な人びとの目を楽しませています。2024年には、国立デザインギャラリー (Galerie nationale du design) がオープンし、約1000平方メートルに国内のデザイン作品が展示されます。

オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方

AUVERGNE-RHÔNE-ALPES

フランス最大のプラネタリウム「ヴェルカニア」

フランス最大のプラネタリウムが2023年にヴェルカニア公園 (parc du Vulcania) にオープンし、天文愛好家から大きな歓喜の声が上がっています。直径22メートルのドームは没入感があり、314人を収容して映画や科学アニメーションで宇宙に飛び立ち、星空を読み解く方法を学ぶことができます。星座を発見するのはもちろんのこと、惑星の位置と動きを忠実に再現したり、太陽系やその向こうへの旅のシミュレーションを行ったりするのも理想的な場所です。



ヌーヴェル＝アキテーヌ地方

NOUVELLE-AQUITAINE



連帯の気持ちで一風変わった 低炭素な旅をする

ヌーヴェル＝アキテーヌ地方でよりサステナブルな旅はいかがでしょう。より持続可能性の高い観光を実現するために始まった、革新的なプロジェクトをふたつご紹介します。ひとつはヌーヴェル＝アキテーヌ観光の温室効果ガス (GHS) 排出量の計算ツールの作成。もうひとつは、知る人ぞ知るヌーヴェル＝アキテーヌの魅力(を) (再) 発見してレスポンスブルな旅をしていただくための、かつてないさまざまな「低炭素」な滞在の提案です。「スロー」な旅の体験は有意義なものであり、人びとの出会いを助長し、ソフトモビリティの利用を促し、持続可能な観光に取り組む地元のインバウンド事業者の選択に繋がるものです。

ボルドーの シテ・デュ・ヴァン

比類のないワインの博物館「シテ・デュ・ヴァン」(Cité du Vin) が送る時代と文化を巡る壮大な旅が、古代から現代に至るブドウとワインの世界を旅へとあなたをいざないます。広さ3000平方メートルを誇るシテは、多くの人びとに親しまれるように、インタラクティブで没入型の多感覚を刺激する体験を提供します。一風変わったツアーを楽しみたいならば、ぜひ新しく始まった没入型のワークショップ「ボルドー 360度」(Bordeaux 360°) をどうぞ。ボルドーのブドウ畑を探索するユニークな1時間の旅がワイン愛好家に好評です。





**📍 プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール
地方 PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR**

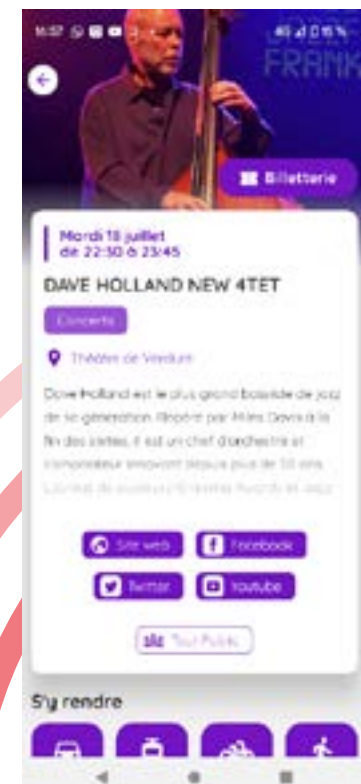
**「ロードブック」、マルセイユで
オーダーメイドな滞在をするための革新的ツール**

Webアプリ「[ロードブック](#)」(RoadBOOK) は、マルセイユ観光局にとって欠かせないツールとなっています。リクエストやプロフィールに応じてパーソナライズされた旅の手帳を生成する「ロードブック」は、関心や欲求に合わせてあらゆる種類の旅のリクエストにお応えします。非常に応答性が高く、情報は小さなwebサイト形式で表示されEメールで共有可能。スマートフォンで利用でき、リアルタイムで情報が更新されます。



「ニース・イベント」アプリでニースをポケットに

「ニース・イベント」(Nice Events) は、[iOS](#)と[android](#)で利用でき、2024年オリンピックなど、ニースで開催される国際的・文化・スポーツイベントを訪れる人びとの旅の体験と滞在を充実させてくれるアプリケーションです。イベントの開催前、開催中、開催後に行われるさまざまな文化・スポーツ関連アクティビティの情報や、リアルタイムのお知らせなどを提供します。「ニース・イベント」はまた、サステナブルな移動手段で楽しむガイド付きツアーで街を発見することも可能にしてくれます。



📍 タヒチ TAHITI

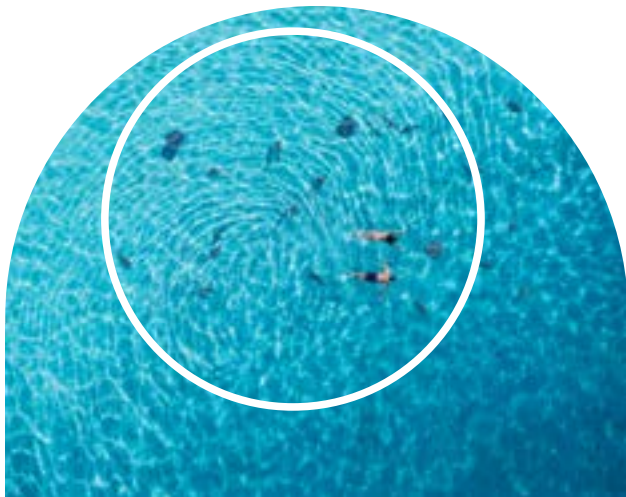


海の豊かさを知る水中トレイル

驚くほど豊かで多様に満ちたポリネシアの海中世界にうっとり酔いしれてください。2012年には20種の新種の魚が発見され、外海とラグーンの両方で怒涛のごとく、絶えまなく変化する生命があることが証明されました。その比類のない価値が認められているおかげで、これら注目に値する生態系は大規模な気候変動からも保護されているのです。この偉業を将来の世代にも守り伝えていくため、フイ（浮標）で示された水中トレイル（ヴァイアヴァ・ビーチ (Plage Vaiava)、ヴェニユス岬 (Pointe Vénus)）がタヒチとその島々のラグーンに敷設されるようになり、5年近くが経ちました。

没入型バーチャルという新たな観光ジャンル

バーチャルツーリズムで、誰もがポリネシアの歴史に浸りながら、その瞳目すべき史跡を訪れることができます。ボラボラ島 (Bora Bora) では、デジタルアプリケーションと物理的な情報パネルを組み合わせることで、第二次世界大戦中のアメリカ占領時代に遡るフィットウ (Fitu'u) の修復された砲台を発見できます。タヒチ島パエア (Paea) にある石積み祭祀遺跡「マラエ・タアタ」(marae Ta'ata) では、別のバーチャルツアーが可能です。新しいテクノロジーにより、遠くからでもポリネシアの歴史と文化を没入型の体験で探索し、理解することができるのです。



フランスの遺産に 酔いしれる



📍 パリと周辺地域

PARIS ET SA RÉGION



ストリートアート： パリ、青空の下のギャラリー

ストリートアートは、生き生きとして、しばしば壮観な、絶え間なく更新される表現手段であり、パリ広域圏の各地で目することができます。第一線で活躍するアーティストたちによって描かれた壮大なウォールアートが、仮囲いや荒廃したかつての工業地帯を彩り、人びとの見る目を一変させました（パリ13区、[ヴィトリー＝シュル＝セーヌ](#) (Vitry-sur-Seine)、ウルク運河沿い、オーベルヴィリエ (Aubervilliers) の「ストリートアート通り」 (Street Art Avenue)、サン＝ドニ、ラ・デファンスなど (La Défense) など)。1980年代初頭に初めてフランスに現れたこの芸術は、いまやパリ広域圏に根付き、その熱い拍動を伝えています。5つ星ホテルのモリートル (Molitor) は、屋内プールの個室ロッカーにストリートアーティストを起用し、改装前にここがアングラの聖地であった過去に敬意を表しています。



現代美術を イル＝ド＝フランスの そこかしこで

現代美術は、[パレ・ド・トーキョー](#) (Palais de Tokyo) などの美術館や、[レ・ムーラン](#) (Les Moulins) の[ガレリア・コンティニウア](#) (Galleria Continua) といったアートギャラリーはもちろんのこと、[イシー＝レ＝ムリノー](#) (Issy-les-Moulineaux) の[ジャン・デュビュッフェ](#) (Jean Dubuffet) による《象徴の塔》(La Tour aux figures) のように街のなかや、大きなアートイベントでも目することができます。パリと周辺地域では、絵画から彫刻、写真、音楽、舞台芸術に至るまで、あらゆる芸術分野が表現されているのです。芸術家と建築家は互いに創造性を競い合い、絶えずアートが進化を遂げている首都とその周辺地域を活気づけています。

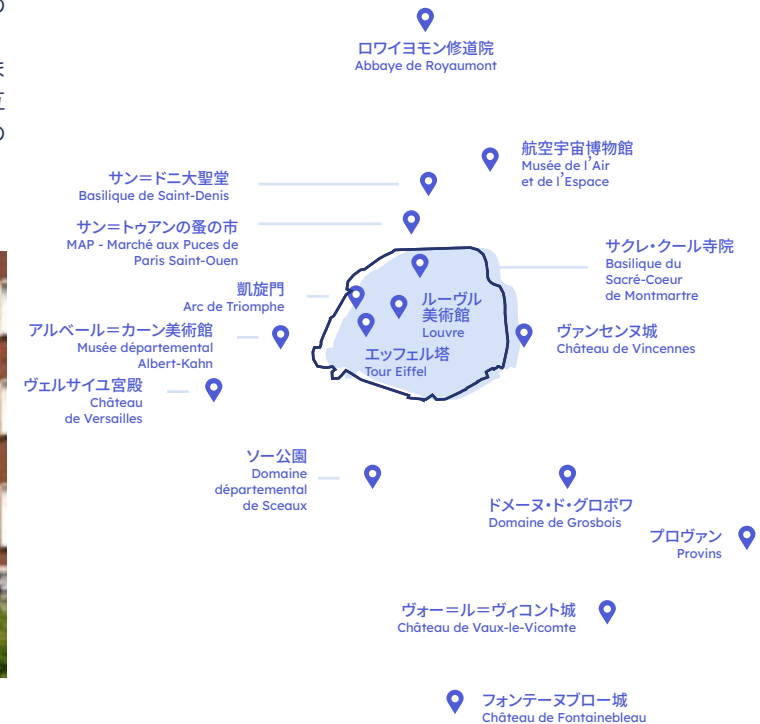


アーバンカルチャーの台頭

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会では、アーバンカルチャーが脚光を浴びることでしょう。カノペ・デ・アール (Canopée des Halles) の下にある都市文化に特化したラボラトリー「[ラ・プラス](#)」(La Place)、かつての煉瓦工場を利用したブレイクダンスを中心とするコンテンポラリーダンスに特化した文化施設「[ラ・ブリケトリ](#)」(La Briqueterie)、パリ観光局「[パリ・ジュレーム](#)」(Paris je t'aime - Office de Tourisme) が考案しエッフェル塔のふもとに新設された「SPOT24」。ぜひ3つのスポットに足をお運びください。

伝統的なフランスの遺産

パリ2024大会の核心にあるのは「革新」ですが、フランスの歴史的遺産もまた見逃すことができません。パリ広域圏の歴史を訪ね、過去との遭遇をお楽しみください。





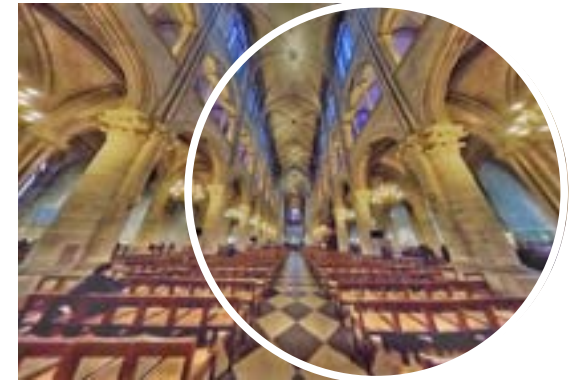
印象派150年

2024年は、世界でもっとも知られている芸術運動である印象派150周年の節目にあたります。パリでは特別な展覧会が、イル＝ド＝フランス地方ではさまざまなイベントが、ノルマンディー地方では「ノルマンディー印象派フェスティバル」(festival Normandie Impressionniste) が開催されます。印象派発祥の地である2つの地方は、フランスのアール・ド・ヴィーヴルと文化を愛する人びとから、これまで以上に熱い視線を集めることでしょう。



ノートルダム寺院の歴史の足跡をたどる

ゴシック建築の至宝であり、首都の中心で人びとの心の拠り所となっているノートルダム大聖堂。2019年4月15日の火災後の修復と再公開を待つ間、大聖堂へオマージュを捧げる催しや展覧会を通じて変わらず讃えられています。首都のさまざまな場所（ルーヴル美術館、ラ・デファンス、建築遺産博物館（Cité de l'architecture et du patrimoine）など）を訪れ、修復中のノートルダム大聖堂を鑑賞し（再）発見されてください。「フライビュー・パリ」(FlyView Paris) で上空を飛行しながら大聖堂を眼下に望むこともできます。



ご存じですか？

100年を経て、1924年大会に思いを馳せる

コロಂಬ（Colombes）にある県立競技場「スタッド・イヴ＝デュ＝マノワール」は、二度のオリンピックでホッケー競技が開催されるフランス唯一の会場です。建築家ルイ・フォール＝デュジャリック（Louis Faure-Dujarric）によって設計され、1924年の第8回オリンピックでは、メイン会場として開会式と陸上競技が開催されました。

オリンピック標語の由来

オリンピックの標語「より速く、より高く、より強く（ラテン語：Citius, altius, fortius）」は、1891年にアルクイユ（Arcueil）で生まれました。ドミニコ会司祭でアルベール・ルグラン中等学校（collège Albert Legrand）の校長であったアンリ・ディドン（Henri Didon）が、友人のピエール・ド・クーベルタン（Pierre de Coubertin）の立ち会いのもと、第1回学校対抗陸上競技大会の開会式で発した言葉です。この言葉に魅了されたクーベルタンは、この言葉をオリンピックの標語としました。

📍 オー＝ド＝フランス地方

HAUTS-DE-FRANCE



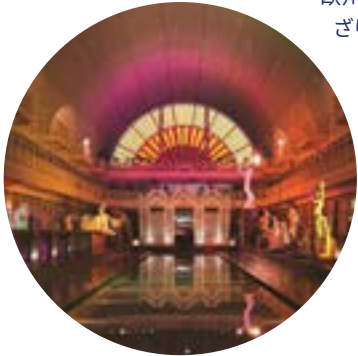
ルーヴル美術館は……炭鉱のなかにある！

ルーヴル美術館が世界に3つあるのはご存知でしょうか？ ユネスコ世界遺産に登録されている鉱山地帯、いくつもの黒いボタ山に囲まれた炭鉱跡地に築かれた、ガラスと金属の傑作であるルーヴル・ランス (Louvre Lens) は、パリ本館とアブダビ別館の間の鉱山の街に位置します。その使命はなんと言っても、より多くの人びとに文化へのアクセスを提供することです。3000平方メートルを超える常設展示スペース「時のギャラリー」(Galerie du Temps) では、パリのルーヴル美術館本館のコレクションから200点以上の傑作を無料で展示しているほか、世界中から展示物を集めた大規模な企画展も開催しています。



リール大都市圏のアートと赤煉瓦

欧州の交差点であるリール大都市圏には、フランドルとアールデコの影響が混ざり合うフランスでも特有な建築遺産があり、かつての工業地帯が、住民とこの地を訪れる人びとの交流の場に生まれ変わっています。2024年は、リールが2004年に欧州文化首都 (Capitale Européenne de la Culture) に選ばれて20年の節目を迎えます。文化プロジェクトを推進するダイナミックなアソシエーション「Lille3000」は、記念碑的な作品、展覧会、魅力的なウォーキングコースなどを提案し、大都市圏全域でボーダーレスな芸術的プログラムを展開します。



ご存じですか？

ユニークな博物館、ルーベの「ラ・ピシーヌ」

アールデコ様式のかつての市営プールが芸術産業博物館「ラ・ピシーヌ」(La Piscine) に生まれ変わったルーベ地区。1927年から1932年にかけて建てられたプール施設は、56の浴室があり、冬季は薬湯が用意され、美容院、マニキュアとペディキュアのサロンを備えていました。その当時の建物の使用状況を臨場感たっぷりに再現した没入型の空間演出のおかげで、「ラ・ピシーヌ」はヨーロッパで最も美しいプールへと生まれ変わりました。

📍 ペイ・ド・ラ・ロワール地方

PAYS DE LA LOIRE



メタル音楽の一大中心地、クリッソン

イタリアの雰囲気が漂うクリッソン (Clisson) は、とても気さくでとてもロックな街です。毎年6月には、エクストリーム・ミュージックのファン必見の祭典「ヘルフェスト」(Hellfest) が開催されています。ユニークな芸術作品 (彫像や幻想的な動物) や巨大な装飾に彩られた街は、フェスティバルの期間外に訪れても雰囲気満点です。比類のない様式美に彩られたクリッソンは、19世紀初頭の建築物が立ち並ぶイタリアの空気に浸ることができる魅力的な街なのです。



ご存じですか？

聖火を運ぶ帆船、ベレム号の起源

ベレム号は、19世紀フランスの名高い大型帆船です。パリ2024大会では、ベレム号がアテネからマルセイユまで聖火を運ぶことが決まりました。ナントのかつての造船場は、現在はクラフトビール工場「リトル・アトランティック・ブルワリー」(Little Atlantique Brewery) となっています。



夏恒例

「ヴォワイヤージュ・ア・ナント」

ダイナミックでクリエイティブ、芸術と歴史に彩られたナントが好奇心を刺激します。毎年開催される「ヴォワイヤージュ・ア・ナント (ナントの旅)」(Voyage à Nantes) は、文化や歴史、ナントの今を発見する旅へ、市民と街への来訪者をいざないます。回を追うごとにさらに多くの人を魅了する、毎夏恒例のイベントです。中心街からナント島に至るまで、街のあちこちの地面に緑の線が示され、ナントを観光しながら文化をひもとく理想的な散策ルートが登場します。

📍 **サントル＝
ヴァル・ド・ロワール地方**
CENTRE-VAL DE LOIRE

数字で見るブレンヌ地方自然公園

ここ**ブレンヌ地方自然公園** (Parc Naturel Régional de la Brenne) は、3,000の池、267種の鳥、10万匹のヨーロッパシガメ、数千の昆虫や動物が息づく**ブレンヌ地方自然公園**。自転車、徒歩、または乗馬で楽しむ、初心者向けや経験者向けのさまざまなガイド付きツアーがあります。



**ルネッサンスの傑作、
シャンボール城**

フランソワ1世の治世に建てられた**シャンボール城** (château de Chambord) は、日中の散策に理想的なスポットです。城内の数ある部屋を巡り、先ごろ設けられた子ども向けのスペースや、敷地内の森とフランス庭園、あるいはパルマカルチャーの菜園を散策するのがおすすめです。城の足もとを流れるコソン川 (Le Cosson) での舟遊びや、馬術ショーの鑑賞などもお楽しみいただけます。



ご存じですか？

ナポレオンはシャトールーを訪れ…なかった！

シャトールーは、ナポレオン広場やサント＝エレーヌ (セントヘレナ) 広場 (place Sainte-Hélène) などの地名から、しばしばナポレオンとのつながりを言及されます。ところが皇帝ナポレオンは、一度たりとも街に足を踏み入れたことはありませんでした。彼の右腕で忠実な友であったアンリ＝ガティアン・ベルトラン (Henri-Gatien Bertrand) がシャトールー (Châteauroux) の出身だったことから、ナポレオンとの縁が結ばれたのです。**ベルトラン美術館** (Musée Bertrand) では皇帝夫妻ゆかりの数々のオブジェを見ることができます。

ご存じですか？

楽しく遺産を発見

ヌーヴェル＝アキテーヌ地方で生まれた「**テラヴァンチュラ**」(Terra Aventura) は、550のテーマに沿ったルートで楽しく宝探しをしながら、地方の遺産を発見する、わくわくどきどきのユニークなジオキャッシング・ゲームです。謎を解き、手がかり探し、宝を探し…。田園地帯に隠されたQRコードと強烈な個性を放つキャラクター、ポイズ (Poiz) 探して冒険する、老若男女を問わないゲームです。

📍 **ヌーヴェル＝アキテーヌ地方**
NOUVELLE-AQUITAINE



ユネスコ認定、傑出した世界遺産の宝庫

ヌーヴェル＝アキテーヌは誰もが惹きつけられる魅力にあふれた地です。ユネスコの世界遺産リストには、ボルドーやサンテミリオンのような世界的に名高い場所から、サン＝サヴァン・シユル・ガルタンブ修道院付属教会 (Abbatiale de Saint-Savin-sur-Gartempe) のような知る人ぞ知る場所まで、**ヌーヴェル＝アキテーヌの15箇所**が登録されています。先史時代の遺産、要塞、巡礼地など、いずれも列車またはバスで訪ねることができます。



**ユネスコ世界遺産に登録された
「月の港ボルドー」を歩く**

ボルドーの中心にある「**月の港ボルドー**」の散策路は、街を象徴するモニュメントや歴史地区などを全長3.6kmで結んでいます。堂々たる邸宅、かつての貴族の館、壮麗な門やファサードなど、ボルドーの27の名所やモニュメントを巡ることができます。「月の港ボルドー」の散策路は、「**観光&ハンディキャップ**」ラベル (聴覚、運動、知的障害者向け) を獲得しています。



📍 オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方

AUVERGNE-RHÔNE-ALPES



グリニャン城、ラベンダー畑に囲まれたルネサンスと古典の宮殿

ドローム・プロヴァンサル地域にあるグリニャン城 (Château de Grignan) は、そのルネサンス建築と、同名の村を見下ろす岩の丘の壮大なロケーションで知られています。10世紀にはすでに城について言及があり、17世紀には書簡集で知られる作家のセヴィニエ侯爵夫人 (Marquise de Sévigné) の邸宅となって名声が高まりました。現在、グリニャン城には、侯爵夫人と彼女の文学作品を紹介する博物館があります。



ご存知ですか？

ブロー王立修道院、愛に捧げるブル＝カン＝ブレスの宗教的モニュメント

ブル＝カン＝ブレス (Bourg-en-Bresse) の建築の至宝であるブロー王立修道院 (Monastère Royal de Brou)。緑豊かな庭園に建つ16世紀の修道院は、フランボワイヤン式ゴシック建築の壮大な一例です。マルグリット・ドートリッシュ (Marguerite d'Autriche) は、最愛の夫であるサヴォワ公フィリベール2世 (Philibert II) へオマージュを捧げるモニュメントとしてこの修道院を建立しました。



世界遺産のショーヴェ2洞窟：動物画は先史時代のストリートアート

ユネスコ最高の榮譽である世界遺産に登録されたショーヴェ洞窟2 (Grotte Chauvet)。36,000年前の洞窟は、比類のない芸術作品のコレクションを有しています。約1000点の素描と425点の動物画は、その歴史の深さや規模、絵画的に優れたさまざまな特質において他に類を見ないものです。没入型の音と光のショー「アニマル」(ANIMAL) の360度プロジェクションで、洞窟壁画をテーマにした時代の旅をお楽しみください。

※ショーヴェ2はオリジナルの洞窟絵画が人の立ち入りで劣化することを防ぐため、見学用に作られた複製の洞窟。

📍 プロヴァンス＝アルプ＝ コート・ダジュール地方

PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR



ニース国立スポーツ博物館でのスポーツ史を

アリアンツ・リヴィエラ・スタジアム (Stade de l'Allianz Riviera) にある国立スポーツ博物館 (Musée National du Sport) は、フランスのスポーツの歴史をたどる世界最大級のコレクションを収蔵しています。ダイナミックな常設展示は、「自分自身への挑戦 (個人競技)」「人と人の挑戦 (対人競技)」「集団への挑戦 (グループ競技)」「限界を超えた挑戦 (エクストリーム競技)」の4つのエリアに分かれています。また、パリ2024年大会に向け「勝利の物語」展 (« Victoires »!) を開催中です (2023年9月17日まで)。



ご存じですか？

タトゥーとタトウ

タトゥーはフランス語でタトゥージュ (tatouage)。タトゥーは世界のあらゆる地域、あらゆる時代に行われてきました。その語源はポリネシア語のタタウ (Tatau) にあります。タタウは先祖伝来の習慣として重んじられ、人生の重要な時期に、サメの歯や鋭く削った骨を使って皮膚に印をつける儀式でした。タタウはまた社会的な目印でもあり、主に上流階級の間でなされてきました。

マルセイユのコスケ洞窟、 目を見張る先史時代の遺跡

後期旧石器時代に遡る洞窟壁画がいくつも描かれているコスケ洞窟 (Grotte Cosquer)。その名称は、1985年にカラंक国立公園 (Parc National des Calanques) 内でこの洞窟を発見したスキューバダイバーのアンリ・コスケ (Henri Cosquer) に由来しています。部分的に水没したこの洞窟への立ち入りは現在許可されていませんが、洞窟の実物大のレプリカが、2022年、欧州地中海文明博物館「ミュセム」(Museum) の近くにお目見えしました。



📍 タヒチ TAHITI



ユネスコ世界遺産、 「タプタプアテア」の祭祀殿跡

タヒチからわずか240km、「聖なる島」の異名を持つライアテア (Raïatea) 島には、ソシエテ諸島最大の「タプタプアテア」(Taputapuātea) の祭祀殿跡があります。生者の世界と祖先の世界が出会う場所として、そして何よりもマオヒ文明1000年の証として知られています。2017年にユネスコの世界遺産に登録されたタプタプアテアで、神聖なひとときをお過ごしください。



ご存じですか？

イフ城の監獄、マルセイユ

アレクサンドル・デュマ (Alexandre Dumas) の小説『モンテ・クリスト伯』(Le Comte de Monte Cristo) の主人公、エドモン・ダンテス (Edmond Dantès) の監獄にでかけましょう。イフ城 (Château d'If) のあの伝説の独房は実在するのです！ はたして主人公が脱獄したのは物語なのか、それとも現実なのでしょう？



エイ、イルカ、クジラ、サメ、サンゴ… 海洋哺乳類の保護区

タヒチと周辺諸島の海洋動物相と植物相は、じつにヴァアラエティに富んでいます。2002年に海洋保護区に指定されたフランス領ポリネシアは、この貴重な宝を保護するため、領内の排他的経済水域全体、約490万平方キロメートルを保護しています。広大なエリアでは毎年7月から11月にかけて、出産のために回遊してくるザトウクジラを見ることができます。

フランスの 生活美学に親しむ



📍 パリと周辺地域

PARIS ET SA RÉGION

フランスが誇る職人の手仕事

パリ広域圏（Grand Paris）では、多種多様な分野で五感を目覚めさせる体験をお楽しみいただけます。地ビール醸造所、蒸留所、チョコレート工房、サフラン栽培、タペストリー修復工房、石膏工場、さらには鋳造や彫刻の工房、小麦粉製造所などで手仕事の体験や見学が可能です。2024年には、職人の熟練した技術を讃える第4回「[パリ・ローカル](#)」(ParisLocal) が催されます。イベントはオリンピック期間に合わせて行われ、パリのホスピタリティを支えるさまざまな才能に光を当てる機会としてスペシャルな開催回となることでしょう。また、その卓越した技能を伝えることに情熱を持つ優秀な職人に与えられる認証マーク「[観光職人](#)」(Artisan du Tourisme) にもご注目ください。



文化のサードプレイス

パリ広域圏のデスティネーションには、誰もが楽しめて、ありきたりでないスポットが多数あります。なかでも、かつての廃墟を改装し、文化的で祝祭的な場所に生まれ変わった[サードプレイス](#)が首都周辺で注目されています（シテ・フェルティエユ (Cité Fertile)、マン・ドゥーヴル (Mains d'oeuvres)、シス・ベ (6b) など)。



伝統の食を味わい尽くす

フランスの美食は、2010年、ユネスコの無形文化遺産に認定されました。[パリと周辺地域](#)には、短いサプライチェーンの地産食材を使い丁寧に手をかけてつくる、洗練された料理を提供するレストランが多数あります。シェフや食に携わる職人たちは自らの創作物を通じてさらなる喜びと驚きを届けるために革新に挑んでいるのです。この地で[味わうべき産品](#)を挙げてみましょう。卵料理のウフ・ミモザ、“パリのハム”ことジャンボン・ド・パリ、お城の名前が付くフォンテーヌブローは有名な[伝統菓子](#)、白カビチーズのブリ・ド・モー、「シャンピニオン・ド・パリ」の名のとおりマッシュルームはパリ周辺が産地、うっとりするほどおいしいチョコレートケーキのオペラなど、有名なものから知人ぞ知るものまで多数あります。





ファッションとショッピングの都

事実、観光で訪れる人の60%が、パリに滞在する主な目的はショッピングだと答えています。百貨店は首都の輝かしい文化に影響を与える重要な役割を果たしています。[サン＝トゥアンの蚤の市](#) (Puces de Saint-Ouen) で手に入る年代物の品物、革新的でよりサステナブルなファッションなど、よりパーソナライズされたショッピングをお楽しみいただけるよう、百貨店は常に改革をつづけています。



ご存知ですか？

フランス最大の市場

ランジス国際市場 (Marché International de Rungis) は世界中の生鮮食品を扱うフランス最大の市場です。モナコ公国と同じ大きさを誇る市場は、まるで都市のなかの都市。パリ2024年大会の期間中、選手や観光客に提供される食事に使われる素材は、その大半がランジス市場で扱われます。



「パリの屋根」を世界遺産に

パリの屋根の上を移動する1500人の曲芸アーティスト。彼ら職人たちは日々、首都の眺望を誉れ高いものにしていくスレート板の屋根を葺き、修復し、改修を行っています。脈々と受け継がれてきた唯一無二の匠の技である屋根葺きの手仕事。これを保護し、ふさわしい評価を与え、新たな職を創出するため、パリの屋根がユネスコの世界遺産に登録するプロジェクトの対象となっています。屋根葺きの手仕事は、パリの中心部にある工房兼ブティック「[レ・トワ・パリジャン](#)」 (Les Toits Parisiens) でも紹介されています。

メゾン＝ラフィット生まれの菓子、 パリ＝ブレストの小さな歴史

甘いお菓子とスポーツは相性がいいもの。1910年、城の街メゾン＝ラフィット (Maisons-Laffitte) のパティシエ、ルイ・デュラン (Louis Durand) は、この街を通るロードレースを宣伝するため、[自転車の車輪の形をしたお菓子](#)をつくり、レースから名前を借りました。おいしいお菓子「パリ＝ブレスト」 (Paris-Brest) は、車輪の形をしたシュー生地、食欲をそそるフレークアーモンドがまぶされ、プラリネクリームで満たされています。

📍 オー＝ド＝フランス地方

HAUTS-DE-FRANCE



才能豊かなシェフたち、洗練された美食

オー＝ド＝フランスの美食を知るには、エスタミネ (estaminet) と呼ばれる北フランスの小さな食堂で、伝統とモダンが融合したシンプルでボリュームのある料理を味わう以上に素晴らしいことはありません。地元の名物料理に舌鼓を打ち、北部のんびりの気さくで賑やかな雰囲気を楽しむ絶好の機会となることでしょう。サプライチェーンの短い地産食材を使った、前衛的な料理を提供することで知られる革新的なシェフが大勢活躍しています。ミシュランの星付きレストランは7軒。驚きの美食をお楽しみください。



フランスで初の「欧州美食地域」ラベルを獲得

ビール、クレームシャンティ (crème Chantilly, ホイップクリーム)、カルボナード (carbonade, ビール煮込み)、ソム湾産のサリコルヌ (salicornes, アッケシソウ)、リール産のワッフル…。オー＝ド＝フランスの豊かさが皿のなかに表れています。2023年に「欧州美食地域」(Région Européenne de la Gastronomie) に指定され、このラベルを取得したフランスで最初の地域であるオー＝ド＝フランスは、ヴァラエティに富んで持続可能な地産地消の食を推進しています。



ご存じですか？

シャンパーニュこぼれ話

シャンパーニュがオー＝ド＝フランスで生産されていることをご存知ですか？ この地方でフランスの生産量の10%を占めています！

📍 ペイ・ド・ラ・ロワール地方

PAYS DE LA LOIRE



食の必須ガイド 「レ・ターブル・ド・ナント」

グルメ案内「レ・ターブル・ド・ナント (ナントの食卓)」(Les Tables de Nantes) が、ナント市内やナントのブドウ畑にある評判のレストランを紹介しています。「ベジタリアン」「優れたセラー」「変わり種」「テラス席」「眺望よし」「テイクアウト」「夜10時以降」など、条件別に合計174軒以上のレストランを選びすぎました。地元の市場や特産品、とりわけこの地の白ワインであるミュスカデに関する情報も掲載されています。



アンジューのワイン街道

小さな村々、市場、ロワール河岸、素晴らしいパノラマ風景、文化的モニュメントの間を走るアンジュー (Anjou) の「ワイン街道」(Routes des Vins) が、あなたを散策とテイスティングにいざないます。ブドウ畑を巡り、赤、白、ロゼ、スパークリング、辛口、セミドライ、微発泡、あるいはまるやかな口当たりのものなど、さまざまなAOCワインを味わいましょう。ワインのお供には、地元の名物料理をどうぞ。これほど素晴らしい組み合わせはありません！

ご存じですか？

LUプティ・ブールの隠された秘密

フランスの有名な菓子メーカー「リュ (LU)」のビスケット「プティ・ブール」(Petit-Beurre) はナントで生まれました。このビスケットの4隅は四季を表し、ふちには1年の週を表す52個の「歯」と呼ばれるぎざぎざがあり、1日の時間を表す24個の点が打たれています。社名LUは、経営者である夫の姓ルフェーヴル (Lefèvre) と妻の姓ユティル (Utile) に由来し、ふたりのイニシャルをひとつに合わせたものです。



育まれました。ヴァランセ城で催された豪華な宴によって、唯一無二のワインとチーズの組み合わせが知られるようになったのです。



シャトーラーの「ル・プチ・ブション」：頑張るあなたに美味しいご褒美を

赤いチェックのテーブルクロスと、和気あいあいとした賑やかなレストラン「ル・プチ・ブション」(Le P'tit bouchon) は、ベリーの郷土料理への愛が感じられる場所です。ベリーのレンズ豆のテリーヌ (terrine de lentilles du Berry) やルイワインで風味をつけた小腸詰のルイ風アンドウイエット (andouillette au Reuilly) など、シェフのジュリアン・マルシェス (Julien Marchès) が手がける豊かなベリーの郷土料理は、「食の匠」(Maître Restaurateur) ラベルを獲得しているほか、ミシュラン・グリーンガイドで紹介されるなど目置かれています。

サントル＝ヴァル・ド・ロワール地方 CENTRE-VAL DE LOIRE

比類なきヴァランセAOC

フランスで唯一、ワインとチーズの両方でAOC(原産地呼称)を獲得しているヴァランセ (Valençay)。ベリー地方ならではのアール・ド・ヴィーヴルは、タレーラン公爵 (Prince de Talleyrand) によって



ご存じですか？

ヴァル・ド・ロワール生まれのタルト・タタン

いまや世界中にその名を知らせるタルト・タタン (tarte Tatin)。19世紀の半ば、タタン姉妹によって、ソローニュ (Sologne) のラモット＝ブーヴロン (Lamotte-Beuvron) で生まれました。ホテルとなった「メゾン・タタン」(Maison Tatin) では、いまもこの有名なタルトが客たちの舌を楽しませています。どうぞ湖と赤煉瓦造りの村々が点在するソローニュへお出かけください。



オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方

AUVERGNE-RHÔNE-ALPES



リヨン旧市街フードツアーでポール・ボキューズ市場へ

なによりもその歴史地区がまず目を惹くリヨンの街で、一風変わった散策と食を味わう体験をお楽しみください。フードツアー (Food Tour) は、リヨンの美食を代表する名産品を味わいながら、有名スポットや穴場のスポットを発見する格好の機会となることでしょう。ツアーでは、職人たちの情熱を知る6箇所以上のスポットを訪ねます。その後、中央市場「レ・アール・ポール・ボキューズ」(Les Halles Paul Bocuse) へ向かい、リヨンで最も有名なレストランに立ち寄りませ

「ヴァレ・ド・ラ・ガストロノミー」、美食で旅する手つかずの大地

「ヴァレ・ド・ラ・ガストロノミー(美食の渓谷)」(la Vallée de la Gastronomie - France) は、飾らないシンプルな喜びとフランスのアール・ド・ヴィーヴルを味わう旅です。ソーヌ川流域とローヌ川流域の遺産である、優れた美食とワイン生産を支えるテロワールの多様性を発見されてください。美食の渓谷の縦断は、ユネスコ世界ジオパークに認定されたボジョレーのテロワール、ワイン街道沿いの手つかずの景観、タン・レルミタージュの街、ドロームの特産品などに驚き魅了されることでしょう。



アンヌ＝ソフィ・ピック、世界でもっとも星を獲得した女性シェフ

現在、パリ、ロンドン、シンガポール、ローザンヌ、ムジェーヴ、そして間もなく香港に進出するアンヌ＝ソフィ・ピックは、フランスで唯一ミシュランの3つ星を獲得した女性です。世界に名を轟かせる彼女のレストランは、出身地であるヴァランスにあり、格別な美食体験を約束してくれます。



📍 **ヌーヴェル＝アキテーヌ地方**

NOUVELLE-AQUITAINE



お墨付きの美食体験

ヌーヴェル＝アキテーヌは、フランスを代表する農業地帯であると同時に、[美食](#)、ワインや蒸留酒、そして地元の特産物でも世界的に知られています。301以上の地理的保護表示（IGP）製品があり、数々のラベルを獲得した優れた食の宝庫です。この地の美食はまた、地産地消で環境に優しいアプローチに支えられており、熱心な生産者によって年間を通して新鮮な食材が供給されています。

**ボルドー：テラスで過ごす
アル・ド・ヴィーヴル**

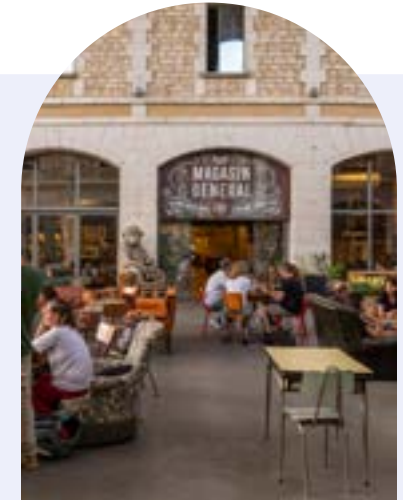
ボルドーの街は、その建築遺産はもちろんのこと、そのアル・ド・ヴィーヴルもまた魅力的です。[ボルドーでもっとも美しい場所](#)を楽しみ、テラスでリラックスしたいと思うと、どこに場所をしぼるかが悩んでしまうほどに充実しています。真夏の空気に誘われて、テラスのひとつに座ってドリンクや地元の名物料理を味わいに出かけましょう。美しい眺望をお望みならば、市街中心部のさまざまな地区でルーフトップがおすすめです。光あふれる街の特別な表情をご覧くださいことができます。



ご存知ですか？

**「ダーウィン」のエコなビストロ、
地産地消が支えるボルドーの美食**

ボルドー右岸に位置する複合施設「ダーウィン」(Darwin) は、使われなくなった元兵舎を環境に配慮して修復した、ボルドーで最も観光客が訪れるスポットのひとつです。ボードスポーツやストリートアートのメッカでもあるこの場所にあるビストロ食堂「[マガザン・ジェネラル](#)」(Magasin général) では、92%オーガニックの食材を使った自家製料理でランチを楽しむことができます。



📍 プロヴァンス＝アルプ＝
コート・ダジュール地方
PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR



マルセイユで本物のブイヤベースを

ブイヤベース (bouillabaisse) は、プロヴァンスを代表する伝統的な料理で、マルセイユ地域にとりわけ深いゆかりがあります。もともとは漁師の家庭の残り物でつられていた質素な料理でしたが、いまでは地元で獲れる多種多様な岩魚やさまざまな魚介類で調理されるようになりました。伝統的なレシピを重んじるレストランの証、「ブイヤベース憲章」(Charte de la Bouillabaisse) が定められています。



📍 タヒチ TAHITI



モツピクニックで
忘れられないひとときを

「モツピクニック」(motu pique-nique) はフランス領ポリネシアの伝統的な習慣です。ターコイズブルーの海に足を浸し、ラグーンの絶景に酔いしれ、地元の食材を味わうひとときを過ごしませんか。海の生き物たちの傍らで味わうモツ(小さな島)でのランチは、きっと忘れられないひとときとなることでしょう。ランチメニューは、獲れたての魚、ココナッツブレッド、色鮮やかな南国のフルーツ、地元の野菜など。



伝統を重んじるニース料理

ニース料理は、都市の名を冠した地方料理の稀有な例として他と一線を画しています。伝統を重んじる「キュイジーヌ・ニッサルド」(Cuisine Nissarde) の認証マークは、正統派のニース料理を再評価し、この食の遺産に敬意を表するものとして生まれました。短いサプライチェーンでもたらされる素材を用い、セミ・ベジタリアンと地産地消を基本とするニース料理はどなたにもお楽しみいただけるものです。

ポリネシアの味を発見する
フードツアー



ビーチ、青いラグーン、ココナッツのヤシの木ばかりがフランス領ポリネシアへの旅の楽しみではありません。どうぞ食の冒険に繰り出しさせてください。「フードツアー」(Food Tour) では、ポリネシア、フランス、中国の3つの文化が融合したタヒチと周囲の島々の日常的な食文化に浸ることができます。絶品のグアバのパイ、新鮮な魚のココナッツミルク和え、ココナッツパン「イポ」(ipo)、タヒチでは誰もが知る揚げドーナツ「フィリフィリ」(firi firi) などをご賞味ください。

ご存じですか？

伝説のビスケット、ナヴェット

「ナヴェット」(navette) は、オレンジの花の香りがする美味しい舟形のビスケットです。その起源は1000年に遡り、マルセイユの才能豊かなパン職人によってつくられました。その形は、イエス・キリストの受難に立ち会った3人の聖マリアたちをエルサレムから陽光降り注ぐプロヴァンスの海岸まで運んだとされる小舟の伝説にインスピレーションを得ています。

ポリネシアの島々を愛するマーロン・ブランド

映画『戦艦バウンティ号の叛乱』のロケハンで初めてポリネシアの地を踏んだマーロン・ブランドは、共演のポリネシアの女性タリタ・テリピアと恋に落ちました。もう一つの恋物語は撮影後のことです。漁師に頼んで連れて行ってもらったテティアロア (Tetiaraoa) 環礁に恋をしたのです。ブランドはテティアロア環礁の所有者となり、そこを自分の隠れ家としました。現在、島には、環礁の自然環境に溶け込んだラグジュアリーなエコロッジ・ホテル「ザ・ブランド」(The Brando) が営業しています。

アウトドアで フランスを発見



ようこそ水辺へ

パリの中心からほんの数分で、いくつもの水路が姿を現し、[水上アクティビティ](#)を体験することができます。カヌーやカヤック、スタンドアップパドルで、スポーツと水辺の散策をお楽しみください。自然と直に触れ合い、岸辺の建物を鑑賞します。天気の良い日には、地元クラブが提供するさまざまな入門コース、[レンタルボート](#)、ガイドツアーで水辺に繰り出しましょう。



ハイキングでパリ広域圏を横断

まるで絵のように美しい小道や曲がりくねった川、緑豊かな森や荘厳な公園など、自然と都市が融合する[パリ広域圏のハイキング](#)が、ユニークな体験の舞台になります。のどかな田園風景、歴史的なモニュメント、活気溢れる界限など、驚くほど変化に富んだ散策をお楽しみください。ハイキングルートは[さまざまなモバイル・アプリケーション](#)でご覧いただけます。ジョルジュ＝ヴァルボン公園や緑道「[グラン・シュマン](#)」(Grand Chemin)があるセーヌ＝サン＝ドニ県、[オー＝ド＝セーヌ県](#)、[ヴァル＝ド＝マルヌ県](#)はとりわけルートが充実しています。

📍 パリと周辺地域

PARIS ET SA RÉGION



テーマ別に楽しむクルーズ

一年を通して[さまざまなクルーズ](#)をお楽しみいただけます。水上からパリ広域圏を発見しましょう。観光にふさわしいソフトモビリティは、「いつもと違うパリ」の豊かさと大切に守られてきた景観と出会う新しい方法なのです。パリ広域圏、[セーヌ＝サン＝ドニ](#)、[マルヌ川](#)に沿って、旅の象徴的なアクティビティとなったクルーズでのひとときを満喫してください。



スポーツクライミングの聖地、 フォンテーヌブローの森

スポーツクライミングが[パリ2024年大会](#)の新種目のひとつに加わったのは偶然ではありません。パリ周辺には優れたクライミングジムが多数あり、パリからわずか1時間のフォンテーヌブローの森 (forêt de Fontainebleau) など、練習に[理想的な自然のクライミングスポット](#)が広がっているからです。22,000ヘクタールもの広さを誇る森はスポーツクライミング発祥の地であり、手つかずの雄大な自然が守られた名高い砂岩の岩場には、さまざまなクライミングルートがあります。





馬術のメッカ、 「グラン・パルク・ド・フォンテーヌブロー」

国有林の中心に位置する「[グラン・パルク・ド・フォンテーヌブロー](#)」(Grand Parquet de Fontainebleau) は、伝説的な馬術競技会場です。近代五種の馬術競技が開催されたことで知られ、数多くの馬術競技の重要な会場となってきたグラン・パルクは、2024年大会での準備拠点となります。ヨーロッパ最大の屋外競技場として、馬術関係者の間でも高い評価を得ています。



グリーンへようこそ

90以上のコースがある[パリとその周辺](#)には、ゴルフ愛好家を魅了してやまない理由があります。質の高いフェアウェイやグリーン、練習場、定評のあるトレーニングセンターなど、スイングやバットを上達させるために必要なものがすべて揃っているのです。

もっとも名高いゴルフ場のひとつ、サン＝カンタン＝アン＝イヴリーヌの[国立ゴルフクラブ](#) (ゴルフ・ナショナル Golf National) は、オリンピック・トーナメントに出場する120人の選手を向かえる場所として、彼らの野心にふさわしい高難易度のコースを備えています。ヴァル＝ド＝マルヌにもまた、[パルク・デュ・トランブレ](#) (Parc du Tremblay) [パルク・ドゥ・マロール](#) (Parc de Marolles) などの有名なゴルフコースが数多くあります。

ご存じですか？

賑わいの中心、 マルヌ川のほとり

ベルエポック時代、マルヌ川のほとりは、日曜日ごとに水辺で楽しい時間を過ごしにやって来るパリジャンのお気に入りの場所のひとつになりました。彼らがカヌーの練習にも親しんでいたことから、マルヌ川はスポーツとしてのボートやカヌーの歴史を担う場所となっています。ボートガレージ、ボートサークルやボートクラブの建物、この地に保養に訪れていた人びとの別荘などが華やかかなりし時代の面影をいまに伝えています。



パリの“ハイライン”

ここはパリのニューヨーク？「[クーレ・ヴェルト・ルネ・デュモン](#)」(Coulée Verte René Dumont) は、バステューユ (Bastille) からヴァレンヌ＝サン＝モール (Varenne-Saint-Maure) までを結ぶ4.5kmの魅力的な散策ルートです。緑地に生まれ変わった廃線跡はそぞろ歩きするのにうってつけです。かつてここを訪れたニューヨーク市長がパリにあるこの空中庭園にいたく感銘を受け、ニューヨークのかの有名な「ハイライン」にインスピレーションを与えたとされています。

記録が生まれるプール

「[ピシーヌ・パルマン・ドゥ・リラダン](#)」(Piscine de Parmain de l'Isle Adam) は、1924年のパリオリンピックの金メダリストであり、1930年代の映画『ターザン』の主人公役で知られるジョニー・ワイズミュラーによって、ダイビングのトレーニングのために1949年に開設されました。



📍 オー＝ド＝フランス地方
HAUTS-DE-FRANCE

広大なビーチでスポーツの感動を

北フランスの**広大なパウダーサンドの浜辺で、ランドセーリング（陸上ヨット）**に挑戦しましょう。地域の多くのヨットクラブで体験を申し込むことができます。同じく海沿いを舞台にしたスポーツで、とりわけ注目を集めているのが「ロンジュ＝コート」(longe-côte) です。散策とスポーツが融合したアクティビティ、ロンジュ＝コートは2007年にダンケルクで誕生しました。胸まで水に浸かり、北海の波をかき分けて進むハイキングをお楽しみください。



雄大な自然のなかをペダルで駆け抜ける「ヴェロマリタイム」

ウクライナのキーウからブルターニュのロスコフまでを結ぶサイクリングルート「ユーロヴェロ4号線」(EuroVelo 4)。フランス国内のルートは「**ヴェロマリタイム**」(Véloritime) と呼ばれ、うち200kmは、オー＝ド＝フランスの広大で変化に富んだ海岸線を走っています。パウダーサンドの浜辺やどこまでもつづく砂丘、切り立った崖が織りなす景色と出会うサイクリングにでかけましょう。ベルギー国境からメール＝レ＝バン (Mers-les-Bains) まで、フランドル・フランセーズ地域 (Flandre française)、オパール海岸 (Côte d'Opale)、遥か対岸にイギリスを望む風が強い岬、ソム湾 (Baie de Somme)、ベルエポックの面影を残す海辺のリゾートなど、日常を忘れてしまう景色が途切れなくつづきます。



ご存知ですか？

2つの岬から遥か遠くにイギリスを望む

カレーにほど近いグリ＝ネ岬 (Cap Gris Nez) は、ヨーロッパ大陸でもっともイギリスに最も近い地点です (わずか30kmの隔たり)。晴れた日には、グリ＝ネ岬とブラン＝ネ岬 (Cap Blanc-Nez) の断崖を結ぶ「税関吏の道」(sentier des douaniers) に沿って、ドーバー海峡の向こうに2つの岬にそっくりの双子の姉妹が姿を現します。「フランスの偉大な景勝地」(Grand Site de France) を巡る壮観で爽快な3時間のウォーキング (12km)。どうぞ息を呑むような絶景をじっくりとご覧ください。

📍 ペイ・ド・ラ・ロワール地方

PAYS DE LA LOIRE

太平洋を目指し 自転車でロワール川を下る



サイクリングルートの先駆けである「[ロワール・ア・ヴェロ](#)」(Loire à Vélo)。壮大な自然が織りなす景観、傑出した文化遺産、活気あふれる街や昔ながらの村を巡り、ロワール川沿いを走るルートです。ナントから大西洋岸まで65kmの道のりは、新しくなった旅の手帳「[パスポート・ラ・ロワール・ア・ヴェロ](#)」(Passeport La Loire à Vélo) がサイクリストの旅のお供となります。道すがらのできごと、心に浮かんだことを綴り、ルート沿いの観光局でスタンプを押してお使いください。

📍 サントル＝ヴァル・ド・ロワール地方

CENTRE-VAL DE LOIRE



カナディアンカヌーで シュノンソーを水上散策

日の出、昼下がり、夕暮れ時、シェール川 (le Cher) から眺めるシュノンソー城 (Château de Chenonceau) は、いつまでも記憶に刻まれる思い出となることでしょう。「[カノエ・カンパニー](#)」(Canoë Company) は、カナディアンカヌーで4~12kmの水上散策ツアーを企画しています。夏季には、カヌーで朝食やランチピクニック、食前酒をお楽しみいただくこともできます。



世界最高峰のヨットレース 「ヴァンデ・グローブ」



4年ごとに開催される「[ヴァンデ・グローブ](#)」(Vendée Globe) は、一人乗りのヨットで無寄港無補給世界一周に挑む伝説的なレースです。ヴァンデ・グローブは、過酷な気象条件、荒れ狂う波、容赦なく吹きつける風が忍耐力と勇気を問う真の試練なのです。世界中のヨットファンが熱い視線が注ぎ、長いレース期間にわたって単独航海に挑む選手たちの偉業を追いかけるヴァンデ・グローブ。次回の出航は、2024年11月10日です。

田園風景を駆け抜ける アンドル川沿いのサイクリング



トゥーレーヌ (Touraine) のブレエモン (Bréhémont) から、トゥーレーヌ地方とベリー地方の景色をアンドル川沿いに200kmにわたって走る「[アンドル・ア・ヴェロ](#)」(Indre à Vélo)。知る人ぞ知るサイクリングルートは「[ラ・ロワール・ア・ヴェロ](#)」に接続しています。城と砦の街アゼール＝リドー (Azay-le-Rideau) やシテ・ロワイヤル・ド・ロッシュ (Cité Royale de Loches) を通り、文化と自然を交互に楽しみながらペダルを漕ぎましょう。ルートのゴール地点は、オリンピック会場のあるシャトールーです。

ご存じですか？

アスリートのダミアン・セガン、 「[テール・ドゥ・ジュール2024](#)」アンバサダーに

ナント出身のヨット競技選手であるダミアン・セガン (Damien Seguin) は、パリ2024組織委員会からアンバサダーに選ばれた4人のアスリートのうちの1人です。2004年のアテネ大会と2016年のリオ大会のパラリンピック金メダリスト、2008年の北京大会銀メダリストであり、前回のヴァンデ・グローブ2020-2021大会では7位に入賞を果たしました。ダミアン・セガンはパリ2024大会の開催に向け、フランス全域の動員の促進を担っています。

緑豊かなシャトールーのベリル公園

12ヘクタールを超える[ベリル公園](#) (Parc de Belle-Isle) を有するシャトールーは、サントル＝ヴァル・ド・ロワール地方でもっとも緑豊かな都市です。公園ではウォータースポーツや文化関連のアクティビティを楽しめるほか、田園風景が好きな方にはデオル (Déols) やサン・モール (Saint-Maure) 方面へ数キロかけて歩く散策ルートや、園内のハイキングを楽しみたい方には20キロの周遊ルートが整備されています。



📍 オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方
AUVERGNE-RHÔNE-ALPES



「ヴィア・ローナ」で、
ガロ・ロマンの歴史と出会うサイクリング

自転車がお好きな方も、自然に親しみたい方も、好奇心旺盛な旅人もお楽しみいただけるサイクリングルート「ヴィア・ローナ」(ViaRhôna)。多彩な風景、歴史的な町、文化的な宝がそこかしこに点在する魅力的な行程をお楽しみください。レマン湖から地中海に至る全長800kmのルートでは、アルプスの雄大な山々からカマルグの緑豊かな平原まで、ローヌ川沿いに多様性に富んだテロワールを探索することができます。



ル・ピュイ＝アン＝ヴェレ発、
サンティアゴ・デ・コンポステラへの巡礼の道

人びとが一生涯に一度はたどってみたいと夢見る伝説の道といえば、千年の歴史を持つサンティアゴ・デ・コンポステラ (Saint-Jacques-de-Compostelle) への巡礼路でしょう。ル・ピュイ＝アン＝ヴェレ (Le Puy-en-Velay) は、サンティアゴ・デ・コンポステラへ至る“王道”のルートである「フランスの道」に合流する「ル・ピュイの道」の出発点として歴史的に知られています。目に映る風景や雰囲気、他の巡礼者やホストとの交流が、オート＝ロワール県のル・ピュイ＝アン＝ヴェレにあるノートルダム大聖堂からスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラまでの道のりを他にはないものになっています。



ご存じですか？

トニー・エスタンゲの原点、
スポーツ都市ポー・ピレネー (Pau Pyrénées)

パリ2024組織委員会の会長であり、欧州チャンピオン、世界チャンピオン、オリンピックのカヌー・スラロームで三度にわたり金メダルを獲得したトニー・エスタンゲ (Tony Estanguet) は、ヌーヴェル＝アキテーヌを熟知しています。ポー (Pau) で育ったトニー・エスタンゲは、この地の急流をお気に入りの練習場にしてその伝説を築きました。

📍 ヌーヴェル＝アキテーヌ地方
NOUVELLE-AQUITAINE



ネイチャースポーツに理想的な大地

広大な空間に紛うことなき自然資産を有するヌーヴェル＝アキテーヌ地方へおいでください。大自然を満喫できるサイクリングロードに徒歩や乗馬で巡る散策路、セーリングやサーフィンなどのウォータースポーツに最適な長い海岸線、ピレネー山脈、5つの地方自然公園、カヌーやカヤックが楽しめる湖や川も多数あり、一年を通して100%アウトドア・アクティビティに挑戦していただけます。



ご存じですか？

二種競技の王者ケビン・マイヤーと、
ドロームでのスポーツへの目覚め

偉大なるチャンピオン、ケビン・マイヤーの秘密を握る鍵は、ドローム県とアルデーシュ県に挟まれた場所にあります。十種競技選手として2016年と2021年のオリンピックで銀メダル輝き、来たるパリ大会で注目される選手のひとりであるケビン・マイヤー。彼が陸上競技と出会ったのは、ドローム県とアルデーシュ県の境、ヴィア・ローナとヴァレ・ド・ラ・ガストロノミー®(美食の渓谷)の境にあるタン・トゥルノン (Tain-Tournon) の街の陸上クラブでした。



「アウトドア・アクティブ」で
ヌーヴェル＝アキテーヌの自然を満喫！

ヌーヴェル＝アキテーヌは、ラ・ロシェル (La Rochelle) からバイヨンヌ (Bayonne) まで続く長い海岸線と、数多くのハイキングルートや自然保護区を誇る、さまざまな表情を持った地方です。ヌーヴェル＝アキテーヌ地方観光局は、アウトドアツーリズムのプラットフォーム「アウトドア・アクティブ」(Outdoor Active)を導入し、この地で行われる持続可能なスポーツと観光活動の豊かさや多様性を紹介しています。



📍 プロヴァンス＝アルプ＝
コート・ダジュール地方
PROVENCE-ALPES-CÔTES D'AZUR



**マルセイユでのダイビング、現代美術、
その生物多様性**

海岸のすぐ沖合に位置する**マルセイユ水中博物館** (Musée Subaquatique de Marseille) は、文字通り地中海の波の下にアートを沈めることで限界を押し広げる、まさに芸術的驚異と言うべきミュージアムです。その革新的なコンセプトは、海の景色に調和して溶け込む水中彫刻の設置に基づいています。アート作品は海洋環境や人間と海の間を繊細に想起させ、海洋生態系の脆弱さとその保存の重要性についての意識を高めてくれます。

**欧州のロングディスタンス・トライアスロン
発祥の地**

「**アイアンマン・ニース**」(Ironman de Nice) はいまや国際的な知名度を誇る催しとなっています。このロングディスタンス(長距離)のトライアスロンレースは、世界で最も過酷な競技のひとつと言われています。地中海で泳ぎ、ニース後背地の壮大な風景のなかでペダルを漕ぎ、かの有名な遊歩道「**プロムナード・デ・ザングレ**」(Promenade des Anglais) に沿って走り抜けるながら、参加者は息を飲むような絶景を全身で感じることができま



📍 タヒチ TAHITI



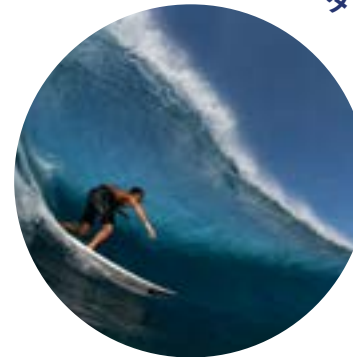
伝統に培われたポリネシアの航海術

ポリネシアの人びとは、間違いなく古代フェニキア人たちに次ぐ歴史上最も偉大な船乗りであり、諸島の海を知り尽くしています。ヨット、チャーター船、丸木舟に帆をかけたピローグ (pirogue) を操る彼らの航海術は、芸術の域に達しています。そもそもは生活の糧を得るために乗っていた伝統のカヌー「**ヴァア**」(va'a) は、いまやスポーツの一種目となり、ポリネシアの選手は、30年以上にわたり毎年、国際的に名高い競技会「**ハワイキ・ヌイ・ヴァア**」(Hawaiki Nui Va'a) に出場しています。



タヒチの南端で島の宝に出会う

フランス領ポリネシアの経済の中心都市である**タヒチ**は、驚きに満ちた島です。南に数キロ進むと、道の果てに有名な標石「**PK 0 (ゼロ)**」が現れます。徒歩またはボートで、タヒチの手つかずの自然が残る海岸線へ冒険に繰り出しましょう。崖上のハイキング、ウォーキング、息を呑むような絶景との出会い…。世界的に名を轟かす**タウポ** (チョーブー) は、ここタヒチ島の南にあります。2024年のオリンピックでは、**タウポの波**がサーファーたちを興奮させることでしょう。



ご存じですか？

ツール・ド・フランス2024、ニースで2024年7月21日にフィナーレ

2024年のツール・ド・フランスの最終ステージは、伝統的にシャンゼリゼ通りで行われてきたスプリントではなく、モナコとニースの間で行われる個人の「**タイムトライアル**」となります。パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会の日程が近いため、ツール史上初めて、パリ以外の場所でフィナーレを迎えることになりました。

多胴船：ポリネシアの伝統と革新

太古の昔からポリネシアの人びとは世界でもっとも海を駆け回ってきました。彼らとその偉業を成し遂げたのは、培われた優れた技術と、観察と経験から得た環境に関する完璧な知識によるものです。彼らが主に移動手段として使っていたのは、大きな「**ピローグ・ドゥーブル**」(pirogue double) と呼ばれる船体を2つ並べた丸木舟でした。カタマラン(2つの船体を並べ甲板で繋いだ船)の形態にインスピレーションを与えることになる多胴船は、こうして発明されたのです。

ナイトライフを楽しむ



夜が更けるまで

伝説的なクラブ、アンダーグラウンド系、エレクトロミュージック専門など、パリは楽しい夜が過ごせるクラブの国際的なメッカとなっています。首都にはそこかしこにナイトライフの殿堂があり、夜更かし族を喜ばせているのです。パリ周辺地区にも数多くのクラブがオープンしており（「[ヴィラージュ](#)」Virage）、ミュージックシーンやダンスシーンのいまを探るのに最適な、まさに文化が息づく場所となっています。



📍 パリと周辺地域

PARIS ET SA RÉGION

ガンゲット、水辺の華やかな賑わいの場

水辺のレジャーと大衆的なダンスホールの象徴であったガンゲット（guinguette）は、時代の移ろいに合わせ、その姿を変えながら存在してきました。ガンゲットはいつの時代も芸術家にインスピレーションを与える場所であり、パリジャンに愛されてきたのです。現在も「[ジャルダン 21](#)」（Jardin 21）や「[メタシュ](#)」（Metaxu）や「[ローザ・ボヌール](#)」（Rosa Bonheur）などのガンゲットがあります。いずれも雰囲気たっぷりの和やかな店へどうぞおでかけください。



ウルク運河、新しい創造のパリ

この20年のウルク運河の変化は目覚ましく、アートクリエーションの新たな表現の地として真の再生を遂げています。展示会場、ライブパフォーマンス、アートスクール、アーティストのアトリエ、サードプレイス、クラブ、平底船を利用したカルチャースポットなど、ウルク運河には、セーヌ河岸に象徴されるクラシカルな永遠のパリにとって代わるものがあります。ウルク運河はアートを中心とした、断固として未来志向のアイデンティティを宿す場所となっています。

ミュージアムで過ごす夜

[パリのミュージアム](#)は、年間を通じて夕方遅い時間まで開館しており、パリの文化遺産を存分にお楽しみいただけます。年に一度の「[ニュイ・デ・ミュゼ](#)」（Nuit des Musées）の期間には、パリの数十の文化施設が例外的に早朝までドアを開き、夜更かしな人びとを喜ばせてくれます。文化にたっぷり親しみながらパリの夜を明かすことができる、またとないイベントです。2024年は5月中旬に開催予定です。

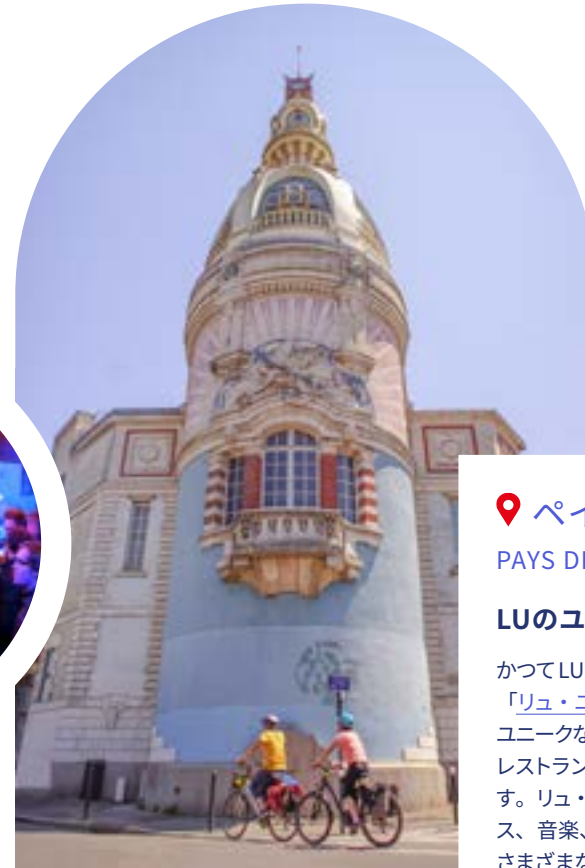


📍 オー＝ド＝フランス HAUTS-DE-FRANCE



いつでもどこでもパーティー！

日が暮れるまで街を楽しみ尽くしに出かけましょう。ルーフトップや期間限定のバー、ガンゲットなど選択肢には事欠きません。さらに夜もエネルギーに楽しみたいならば、リール街の代表的な地区や通りへ向かうのがおすすめです。リール旧市街 (Vieux-Lille)、ロワイヤル通り (rue Royale)、ソルフェリーノ通り (rue Solférino)、マセナ通り (rue Masséna)、ワゼム地区 (quartier de Wazemmes) など、朝方まで営業している店がたくさんあります。



📍 ペイ・ド・ラ・ロワール

PAYS DE LA LOIRE



LUのユニークな「リュ・ユニーク」

かつてLUのビスケット「プティ・ブール」の製造工場だった「リュ・ユニーク」(Lieu Unique)は、現在、文化芸術のユニークな施設となっています。展示スペースのほか、バー、レストラン、ハمام(トルコ式風呂)、託児所を備えています。リュ・ユニークでは、年間を通して、ライブパフォーマンス、音楽、現代美術などの国際的なプログラムを企画し、さまざまな分野のフェスティバルを開催しています。

「リトル・アトランティック・ブルワリー」

ロワール川のほとりにある、19世紀の建物を利用した地ビール醸造所、LABこと「リトルアトランティックブルワリー」(Little Atlantic Brewery)。かつて製油所だった建物は、オリンピックの聖火をパリに運ぶフランス最後の大型帆船、ベレム号が建造されたドックのあった場所に位置します。航海と文化の歴史が詰まったこの場所が、いまやナントに欠かせない地ビール醸造所となりました。





📍 **サントル=ヴァル・ド・ロワール地方**

CENTRE-VAL DE LOIRE

ガングットで祝杯をあげる夏

ロワール川のほとりに夏季限定で現れる20軒の野外カフェ、**ガングット**で乾杯をしましょう。そこには音楽が鳴り響き、楽しい雰囲気に満ち満ちています。国立スポーツ射撃センターでの観戦帰りには、ぜひ「ベル=イル」にお立ち寄りください。一日の終わりに湖を眺めながら、オリンピックの勝利を祝うのにおすすめのガングットです。



ブロワ城の音と光のショー

7人を超えるフランス王と10人を超える王妃が、4月から9月にかけて滞在したブロワ城が、夜を彩る音と光のショーのためにその門扉を開きます。「**ブロワはかく語りき**」(Ainsi Blois vous est conté) と題されたショーでは、雄大な建物のそれぞれまったく様式の異なる4つの翼に映像が投影され、城とフランスの歴史をたどります。



📍 **オーヴェルニュ=ローヌ=アルプ地方**

AUVERGNE-RHÔNE-ALPES

リヨンのユニークなスポット、HEAT

リヨンのコンフリュアンス (Confluence) 地区の南、かつてボイラー工場にある **HEAT (ヒート)** は、フードコートとサードプレイスの中間のようなスポットです。HEATで提供されるメニューはイベントプログラムとして考案されており、週ごとに店が入れ変わります。いずれもメニューの花形はストリートフード。あなたを新たな体験へと誘ってくれる食の旅をお楽しみください。



シャモニーの「コスモ・ジャズフェスティバル」、湖と氷河のはざままで聴くコンサート

日常を忘れ、**シャモニー** (Chamonix) の想像を絶する風景、めまいをおこしそうなほどの旅、宇宙と響き合うサウンドを知る魔法の休暇を過ごしたいなら、標高2,000メートルで開催される完全無料のイベント「**コスモ・ジャズフェスティバル**」(Cosmo Jazz Festival) にでかけましょう。湖や氷河のほとり、あるいは山の頂きで行われるこのフェスティバルが、さまざまな感情を呼び起こし、音楽の力を高め、唯一無二の体験をさせてくれるはずです。



📍 **ヌーヴェル＝アキテーヌ地方**
NOUVELLE-AQUITAINE



夏のビッグイベント

ヌーヴェル＝アキテーヌは、老若男女におすすめの夏のイベントが目白押し、夜までお楽しみいただけます。「フランコフォリー」(Francofolies)、「ガロロック」(Garorock)、「ブリーヴ・フェスティバル」(Brive Festival)などの音楽フェスティバルのほか、地域レベルで企画される催しも多数あります。そのひとつ、「カスティヨンの戦い」(Bataille de Castillon)は、百年戦争の終結のいきさつを再現したヌーヴェル＝アキテーヌ最大のスペクタクルです。馬術ショー、芝居、音と光のショーで構成されたスペクタクルは、台本のある夜の一大絵巻物です。

ナイトライフで楽しむオリンピック以外のボルドー

「眠れる森の美女」と呼び習わされてきたボルドーの街。けれども美しきボルドーは、じつは眠らない街だったのです。どうぞ、活気と賑わいにあふれる夜をお楽しみください。市内中心部には、さまざまなテイストのワインバーやカクテルバーなど、今をときめく人気のスポットが多数あります。ガロンヌ川 (la Garonne) のほとりは静かな夜の散歩にも最適です。ボルドーとその都市圏には多彩なプログラムの劇場がひしめいており、ボルドーの街では毎日上演が行われています。



📍 **プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地方**
PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR

マルセイユのビーチとマリーナで楽しむアペリティフ

アペロ (apéro) とも呼ばれるアペリティフ。マルセイユでは、アペロは単なる食前酒を飲む伝統ではなく、生活に潤いをもたらす美学です。水辺で足を浸しながら、あるいはテラスでパステリスやロゼワインをあまり、ひよこ豆のペーストのフライ「パニス」(panisse) やタプナード (tapenade) を味わうひとときは、その一瞬一瞬が和やかな彩りに満ちたものとなるでしょう。マルセイユのプラド・ビーチ (plages du Prado) には、数多くのレストラン、カフェ、クラブ、バーが軒を連ねる、おすすめの賑やかな界限です。マルセイユ港とフリウル諸島 (îles du Frioul) に沈む素晴らしい夕景をお楽しみください。

ニースのそぞろ歩きは夜が更けるまで

ニースで地元の人々や観光客に人気のひととき華やかなスポットであるパン広場 (Place du Pin) は、ニース港と「ニースのマレ地区」と呼ばれる魅力的なマレニソワ (Marais niçois) 地区の中心部、ガリバルディ広場の間に位置しています。広場の一部は歩行者専用になっており、散策に最適です。地元の小さな店が軒を連ねる広場には、数多くのレストラン、バー、活気あふれる生活の場があります。ニースの暮らしに触れ、その本質を知ることができるおすすめの場所です。





📍 タヒチ TAHITI

**ブラング、
ポリネシアのアール・ド・ヴィーヴル**

「ブラング」(bringue) は、ポリネシアの人びとのDNAに深く根ざしている、神聖で欠くことのできない伝統の習慣です。結婚式、誕生日、洗礼、個人的な成功、家族の再会、宗教行事など特別な節目を記念して行われます。今この瞬間を楽しみ、心から喜び、分かち合う大規模なお祝いの宴なのです。ブラングは場所を問いません。ビーチで、自分や他のひとの家で、あるいは「家族のペンション」(pension de famille) とも呼ばれる、家族経営の小規模な宿泊施設である**プティ・ホテルリ・ファミリアル** (Petite Hôtellerie Familiale) で、はたまた小旅行をしながらなど、どこでも行うことができます。ブラングはマオイ族のアイデンティティと魂の表れであり、それを伝えていくものなのです。

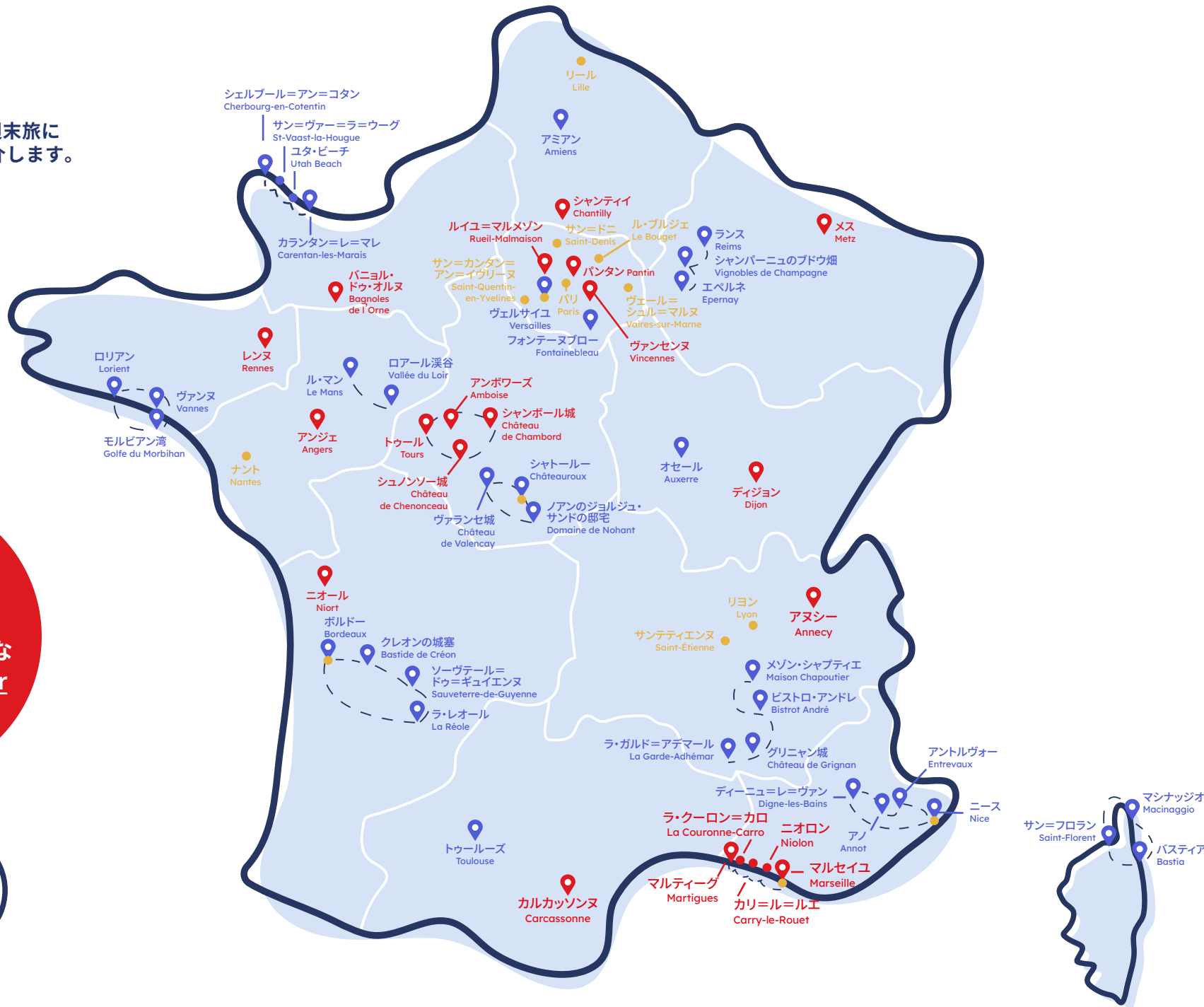


**屋台村「タマ・マイタイ」
(Tama'a maitai) でディナーを**

ポリネシアでは、**ルロット** (roulotte) と呼ばれる、フードトラックによる移動式のレストラン(屋台村)が半世紀以上前から定着しています。路肩や広場、海岸沿いで営業するルロットには、毎晩、あらゆる客層が集います。ステーキやフライドポテト、獲れたての魚を使った料理、春巻き、ハンバーガー、ブルターニュ風のガレットに中華焼きそばなど、オープンキッチンから提供される驚くほど多種多様な料理をお楽しみください。

競技会場からの旅のアイデア

次のページより、日帰り旅と週末旅に
お薦めのプランを14ずつご紹介します。



大会期間中の
フランスでの旅を
計画するのに役立つ
旅のアイデア、便利な
情報はぜひ[France.fr](https://www.france.fr)
をご覧ください。

- 📍 週末の旅
- 📍 日帰り旅
- 競技会場

旅のアイデア… パリと周辺地域

日帰りの旅… 帝政時代に思いを馳せ、ルイユ・マルメゾンへ パリからRERで30分

ナポレオン・ボナパルトとジョゼフィーヌ妃の愛を物語るマルメゾン城 (château de Malmaison) や、ジョゼフィーヌが埋葬されたサン＝ピエール・サン＝ポール教会 (église Saint-Pierre-Saint-Paul) など、ルイユ・マルメゾンには帝政時代の香りが漂っています。

スポット 1

皇帝夫妻の愛の巣：1799年にジョゼフィーヌが手に入れたマルメゾン城は、長年にわたり皇帝夫妻が幸福に仲睦まじい時を過ごした舞台となりました。

スポット 2

ランチタイム：マルメゾン城からほど近い「ブラスリー・デュ・シャトー」(Brasserie du Château) で、クラシカルな“フレンチ・ガストロノミー”のランチをお楽しみください。

スポット 3

皇妃とその娘の墓前で黙とう：歴史的建造物に指定されているサン＝ピエール・サン＝ポール教会を訪れ、ボワ＝プレオ公園 (Parc de Bois-Préau) を散策してジョゼフィーヌと娘オルタンスの墓に向かいます。

スポット 4

大自然の豊かな色彩に酔いしれる：ガリクール空中遊歩道 (passerelle des Gallicourts) を経て、城から徒歩30分の印象派公園 (Parc des Impressionnistes) まで散策します。

日帰りの旅… ヴァンセンヌからマルヌ河畔 まで パリからRERで10分

パリの東、そこは大自然の宝宝箱…。歴史あるいは自然の遺産のすべてがここにあります。

スポット 1

ヴァンセンヌ城：丘巻の歴史的建造物は、フランス国王の憩いの場でした。この地方の歴史と中世の建築を如実に物語っています。

スポット 2

ヴァンセンヌの森とその宝の数々：4つの湖、パリ花公園 (Parc Floral)、ヴァンセンヌ競馬場 (hippodrome de Paris-Vincennes)、熱帯農園など、首都近郊にありながら牧歌的なひとときを味わうことができます。

スポット 3

マルヌ川のほとり：レジャーや散歩に最適な河畔で、華やかなりし時代の「水辺の日曜日」に思いを馳せてみましょう。

スポット 4

国立レジスタンス博物館 (Musée de la Résistance nationale) で**小休止**：没入型の体験ができる博物館。1929年から1947年までのフランスにおけるレジスタンスの歴史への理解が深まります。





日帰りの旅… **パンタン (Pantin)**、**ウルク運河**沿いに行く
— パリから地下鉄またはRERで10分

産業遺産と文化遺産、賑わいとナイトライフでいまもっとも注目される町、パンタンにでかけましょう。

スポット 1

運河沿いを散策：**グラン・ムーラン (Grands Moulins)**、国立ダンスセンター (Centre National de la Danse)、「**オー・フィル・ドゥ・ロ** (流れのままに) **劇場**」(théâtre « Au fil de l'eau »)、「**グラン・セール (Grandes Serres)**、**マガザン・ジェネロー (Magasins Généraux)**」など、ウルク運河沿いの建築景観をお楽しみください。

スポット 2

環境に配慮したサードプレイスを訪問：世界的に有名な現代美術のギャラリー「**タデウス・ロパック**」(Galerie Thaddeus Ropac) やサードプレイス「**シテ・フェルティル**」(Cité Fertile) でくつろぎのひとときを。

スポット 3

運河でリフレッシュ：素敵な一日の締めくくりには「**ブラッスリー・ガリア**」(Brasserie Gallia) で樽生ビールを、あるいはポワント広場 (place de la Pointe) 横に係留された平底船「**ペニシュ・メタクシュ**」(Péniche Metaxu) や複合文化施設「**ドックB**」(Dock B) でワインを一杯。

週末の旅…

フォンテーヌブローで優雅な時間を **パリから電車で1時間**

王家ゆかりの壮麗さ、充実した文化と美食…パリから1時間足らずのフォンテーヌブローが、2日間の週末の休暇を過ごす家族や恋人たちを十分に満足させる、あらゆる切り札を繰り出します。

1日目

フォンテーヌブロー城と**市街地**：フォンテーヌブローといえば、「王の居城」として、1000年近い歴史が凝縮されたかの有名な城を抜きにしては考えられません。中世、ルネサンス、クラシックなどさまざまな様式が見られ、君主たちの謁見の間、ナポレオン1世博物館、有名な「**ギャルリー・デ・セール (鹿の回廊)**」(galerie des Cerfs) を見学することができます。

2日目

フォンテーヌブローの森で**緑に囲まれる一日**：市街地から徒歩20分でアクセスできるこの緑の楽園は、ユネスコの生物圏保護区に指定されています。



週末の旅… 好天に恵まれたら**ヴェルサイユ**へ行こう
パリ中心部からRERで40分

太陽王ルイの栄華を伝えるヴェルサイユへようこそ。1682年にルイ14世の建築家たちによって設計されたヴェルサイユの街。彼らが定めた掟は今も重んじられており、宮殿より高い建物はひとつもありません。

1日目

ヴェルサイユ宮殿の領地：ユネスコの世界遺産に登録されているヴェルサイユ宮殿の領地では、その最高の宝石と言うべき、まばゆいばかりの王の間、宮廷庭師ル・ノートル (Le Nôtre) による豪華な庭園、まばゆいばかりの鏡の回廊などを目の当たりにすることができます。

2日目

ヴェルサイユの街を発見：正方形の建物の市場がある**カレ・ノートルダム (Carré Notre-Dame)** やアンティーク街を散策した後は、宮殿の大厩舎 (Grande Écurie) と馬術アカデミー (Académie équestre) を訪ね、素晴らしい馬術ショーをお楽しみください。





旅のアイデア…
オー＝ド＝フランス地方
LES HAUTS-DE-FRANCE

日帰りの旅… シャンティ公爵領 (Domaine des Princes de Chantilly)、保養地で過ごす優雅な一日
パリから電車で20分

スポット1

シャンティイ城：水辺に置かれた宝石箱のような城は、最後の領主オーマル公 (Duc d'Aumale) のコレクションを所蔵する、まさにお城の美術館です。ルーヴル美術館に次いで、フランス第2位の絵画のコレクションを誇ります。

スポット2

城の庭園と大厩舎：ルイ14世お抱えのヴェルサイユの宮廷庭師であったル・ノートルによって設計された庭園は必見です。馬術の伝統を守り伝える城の大厩舎では、華やかな衣装を身に纏って上演される国際的な馬術ショーが行われています。

スポット3

おいしいひとやすみ：有名なクリームを味わわずにシャンティイを去ることはできません。ふくよかで濃厚ななめらかさを持つクレーム・シャンティイ (ホイップクリーム) は、300年以上前にここで生まれました。



週末の旅… 歴史を宿す緑の街アミアンへ
— パリから電車で1時間

パリとリールからわずか1時間のアミアン (Amiens) は、その文化と自然があらゆる旅の欲求を満たしてくれる寛大な街です。

1日目

アミアン市街地の遺産：「北のヴェニス」と呼ばれる小さな街は、そこかしこに運河が、オルティヨナーージュ (hortillonnage) と呼ばれる中世に歴史をさかのぼる湿地農園が見られる、おかしがたい静寂に満たされています。ユネスコの世界遺産に登録されているフランス最大のゴシック様式の大聖堂は、夏の夜、音と光のショー「クロマ」(Chroma) で精彩な姿をわたしたちに見せてくれます。

2日目

美食と文化に触れる：午前中は、ベリュ河岸 (Quai Bélu) の向かいで湿地農園の生産者が直売を行う「水上マーケット」(marché sur l'eau) を訪ね、それからマカロンとチョコレートで有名な「メゾン・トロニュー」(Maison Trogneux) へ。つづいて、作家ジュール・ヴェルヌ (Jules Verne) が1882年から1900年まで暮らし、彼のもっとも有名な登場人物たちを思い描いた家を見学し、フランス初の美術館であるピカルディ美術館 (Musée de Picardie) へ向かいましょう。



旅のアイデア…ペイ・ド・ラ・ロワール 地方 LES PAYS DE LA LOIRE

日帰りの旅…西のアテネ、アンジェの一日 パリから列車で1時間30分

豊かな歴史遺産とゆったりとした暮らしぶりで知られるアンジュー地方の首都アンジェへでかけましょう。

スポット 1

中世の城：17の塔、城壁、跳ね橋がランドマークとなっている街のシンボル、アンジェ城を訪ねます。

スポット 2

歴史地区：15世紀に建てられたみごとな木組みの家々を鑑賞しながら、石畳の歴史的地区を散策しましょう。

スポット 3

ギャルリ・ダヴィッド・ダンジェ (Galerie David d'Angers)：驚くべき空間で展示されているのは、18世紀の彫刻家ダヴィッド・ダンジェの荘厳な作品の数々です。かつては修道院であった特別な雰囲気のある空間には、堂々としたガラス屋根から光がさんさんと降り注いでいます。

スポット 4

夕暮れ時のくつろぎ：夕陽を見ながらグラスを傾けるのにふさわしいコアントローのカクテルを飲み、ビストロ「ラ・レゼルヴ」(La Réserve) へ。コアントロー (Cointreau) は、アンジェで生産される世界的に名高いオレンジのリキュールです。



週末の旅…ロアール渓谷とル・マンでブドウ畑と蝋の街を巡る パリから電車で55分

伝説的な四輪耐久レースで世界中に知られるル・マンの街。けれどもその魅力は24時間レースだけではなく。周辺地域にも一見の価値あります！

1日目

ル・マンの歴史地区：まずはル・マン24時間レース博物館 (Musée des 24H) を訪れ、このレースを伝説にした英雄たちについて学びましょう。その後、ル・マンの歴史地区の石畳の歩き、数々の映画の舞台にもなった中世の地区へ。

2日目

ロアール渓谷：ジャニエール (Jasnières) のブドウ畑を散策し、AOCに分類される白ワインを試飲しましょう。その前にぜひ、フランスの自動車レースファンにとって伝説的な場所であるオテル・ド・フランス (hôtel de France) のテラスでカフェを一杯飲むのを忘れなく。



週末の旅… ナポレオンゆかりの地シャトール
二からジョルジュ・サンドゆかりの地へ
パリから列車で2時間10分

1日目

皇帝ゆかりの街で：シャトールーの街を巡り、ナポレオンの思い出に捧げられたベルトラン博物館を訪ねましょう。花々が咲き乱れるコルドリエ庭園を通り抜け、ベル＝イル公園まで。公園の湖ではカヌーで水上散策が楽しめます。

2日目

ヴァランセ城：壮麗なルネッサンス様式の城を訪ねたら、ヴァランセワインとピラミッド型のヤギ乳チーズをお召し上がりください。ヴァランセは、フランスで唯一ワインとチーズの両方でAOPが認証されています。

3日目

ジョルジュ・サンドの足跡をたどる：有名な作家のロマンティックな思い出に彩られた地で一日を過ごします。ノアの邸宅には、この19世紀を象徴する人物の思い出にいまも彩られています。



旅のアイデア…
ヴァル・ド・ロワール地方
LE VAL DE LOIRE

日帰りの旅… シャトーとワインの街、トゥールとその周辺を巡る
パリから列車で1時間15分

トゥールの市内中心部から出発し、傑出した遺産と出会う旅へかけましょう。

スポット 1

シャンボール城：25歳の若き王フランソワ1世の夢を実現させた城は、建設から5世紀以上経った今も人びとを魅了しつづけています。

スポット 2

シュノンソー城：16世紀に建てられたフランス・ルネサンスの傑作。「貴婦人の城」(le château des Dames) と呼ばれるシュノンソーは、自然、水、空気、緑の完璧な調和という概念を思い起こさせます。

スポット 3

アンボワーズのワイン醸造所訪問と試飲：王家の谷とも呼ばれるロワール渓谷の斜面にあるドメーヌでは、伝統を重んじたワイン造りが行われています。

旅のアイデア…

オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方

AUVERGNE-RHÔNE-ALPES

日帰りの旅… アヌシー、湖畔で過ごす一日 リヨンから列車で2時間

「アルプスのヴェニス」へ出かけましょう。町の魅力を知り、アヌシー湖と息をのむような周囲の景色を楽しむ素敵な日帰り旅行のプランをご紹介します。

スポット 1

アヌシー湖：新鮮な空気を胸いっぱい吸いこみ、アヌシー湖の周囲を散策しましょう。一日の始まりにふさわしい美しい風景が楽しめます。

スポット 2

市内中心部：アヌシーの旧市街へ向かい、絵のように美しい通りを散策し、中世の建築を堪能します。昼食は、旧市街にある魅力的なレストランで、フォンデュや、チーズとジャガイモとベーコンなどを重ねて焼いたタルティフレット (tartiflette) など、サヴォワ地方の名物料理やワインをお楽しみください。

スポット 3

アヌシー城：街の文化の中心地、その城壁からは絶景を見渡すことができます。



週末の旅…「ヴァレ・ド・ラ・ガストロノミー®(美食の渓谷)」 でめくるめく壮大な風景と美食を味わう パリから列車で2時間30分

コート・デュ・ローヌ (Côte du Rhône) のブドウ畑からアルデーシュの渓谷まで、ラベンダー畑、オリーブの樹々、高台にある村々が彩るのどかな空気に包まれ、ドローーム・プロヴァンス地域で素晴らしい体験をお楽しみください。

1日目

ドローーム渓谷の魅力を満喫：タン・レルミターージュ (Tain-l'Hermitage) にある「[メゾン・シャプティエ](#)」(Maison Chapoutier) でワインを試飲したり、ヴァランスのミシュラン1つ星シェフ、[アンヌ＝ソフィ・ピック](#)が経営する「[ビストロ・アンドレ](#)」でランチをしたり、ミルマンド (Mirmande) の街での石畳の道の散策を楽しんだり…。ドローーム渓谷はその最高の宝物をわたしたちに見せてくれます。

2日目

ドローーム・プロヴァンサルを発見：モンテリマル (Montélimar) から20キロ、ラ・ガルド＝アデマルの白い石畳が、ドローーム・プロヴァンサルの陽光をまぶしく照り返します。グリニャンの街では、まさに南仏の「小さなヴェルサイユ」のような城を訪ねましょう。





旅のアイデア… ヌーヴェル＝アキテーヌ地方 NOUVELLE-AQUITAINE

日帰りの旅… ニオール、大自然に安らぎを求めて パリから列車で1時間50分

マレ・ポワトヴァン (Marais poitevin) 地域の玄関口であり、大西洋の窓であるニオールは、豊かな自然に恵まれた街です。静けさを宿すエコツーリズムのdestinationである、セーヴル・ニオルテーズ川 (la Sèvre Niortaise) が流れ込む歴史の中心地であるニオールを訪ねましょう。

スポット 1

アリエノール・ダキテーヌ (Aliénor d'Aquitaine) の足跡をたどる：ニオールの町の中心を散策しましょう。フランスでもっとも美しいロマネスク様式の双塔の城塞である、アリエノール・ダキテーヌのニオール城など、多彩な遺産を見ることができます。

スポット 2

ベルナル・ダジェシ博物館 (Musée Bernard d'Agesci)：ボザール美術館、かつての自然史博物館と教育保全機構のコレクションが収められた必見のミュージアムです。

スポット 3

エコツーリズム散策：川沿いのボワノ港 (port Boinot) へ向かい、水辺の街ニオールを発見しましょう。セーヴル河岸に整備された遊歩道「クーレ・ヴェルト (Coulée verte)」の散策して、マレ・ポワトヴァン地域自然公園の自然をたっぷり満喫しましょう。



週末の旅… 「バラード・アヴェック・バッカス」でボルドー自転車巡り パリから列車で2時間30分

ボルドー内陸部を自転車で巡る「バラード・アヴェック・バッカス」(balade avec Bacchus)。ワインの生産者との出会い、味わい、景色を楽しみ、五感を刺激しましょう。ドルチェ・ヴィータを自転車で!

1日目

芸術と歴史の町と田舎道：列車でボルドーを出発し、芸術と歴史の町ラ・レオールへ。到着後は自転車に乗り、木組みの家が並ぶ細い通りやフランス最古の市庁舎など、1000年の歴史を持つこの町を発見しましょう。

2日目

ブドウ畑、森、城塞を巡る：ジオキャッシング・ゲーム「テラヴァン美ら」を楽しみながら城塞都市ソーヴェテル・ドゥ・ギューエンを知る、他では味わえない体験を。

3日目

ボルドーの玄関口へ：田舎道を走りクレオンの城塞を訪れた後は、かつての鉄道路線に整備された「ロジェ・ラペビ緑道」(voie verte Roger Lapébie) を出発します。ラトレーヌ (Latresne) ではガロンヌ川沿いの曲がりくねった道でペダルを漕ぎ、ボルドーの波止場を目指します。



旅アイデア…

プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地方

PROVENCE-ALPES-CÔTE D'AZUR

日帰り旅… マルセイユの海沿いで過ごす パリから列車で3時間

「パス・ブルー」(Pass Bleu) を持って、マルセイユ・サン＝シャルル (Marseille Saint-Charles) 駅からコート・ブルー (Côte Bleue) 列車に乗り、心ときめく旅をお楽しみください。



スポット1

ニオロン：この魅力的で絵のように美しい村の人里離れた入り江を探検。

スポット2

カリル＝ルエ：「コート・ブルーの真珠」と称される魅力的で家族向けのリゾート地で、港沿いを散策し、海が見えるレストランで美味しいランチをお楽しみください。

スポット3

ラ・クーロン＝カロ：小さな漁港、入り江、手つかずのビーチ、息をのむような大自然を発見してください。

スポット4

マルティグ：「プロヴァンスのヴェニス」と呼ばれるこの町の魅力的な運河とカラフルな家々がうっとり目を楽しませてくれます。サン＝ルイ教会 (église Saint-Louis) を訪れ、賑やかな港を散策し、多くの名高い芸術家たちにインスピレーションを与えたロマンチックな橋を鑑賞しましょう。



週末の旅… コート・ダジュールからアルプスの麓まで、鉄道でゆく プロヴァンス — パリから列車で6時間

栗の木の郷から優美なラベンダーの郷への快適な電車の旅。窓の外を流れる村々、川や山、渓谷が織りなす景色に酔いしれ、ニースからディーニュ＝レ＝バンの間で下車してみましょう！

1日目

ニースからアントルヴォーへ：最初下車駅はアントルヴォー。城壁に囲まれ、ヴォーバンの城塞 (citadelle de Vauban) を見下ろす中世の都市の文化に触れます。つづいて「個性的な村」のラベルを獲得しているとしてアノを訪ねましょう。栗の木立と砂岩の大地を散策し、浸食によってできた小道が点在する神秘的な風景をお楽しみください。

2日目

アノからディーニュ＝レ＝バンへ：ディーニュ＝レ＝バンでは、大パノラマで眺望を楽しめるクーソン山頂 (somet du Cousson) を目指す象徴的なハイキングか、オート＝プロヴァンスのユネスコ・ジオパークにある散策ルート「レフージュ・ダール」(Refuge d'Art) のハイキングをお楽しみください。

3日目

ディーニュ＝レ＝バンからニースへ：ハイキングを存分に楽しんだあとは、ニースへ戻ります (所要時間3時間20分)。もっとゆっくりとした観光を楽しみたい方、ノスタルジックな雰囲気が好きな方、ヴィンテージ愛好家の方には、5月から11月初旬、ピュジェ＝テニエール・フジュレを結んで運航する幻の蒸気機関車「ピニユ」(Pigne) の旅がおすすめです。

旅のアイデア… ブルゴーニュ地方 BOURGOGNE

日帰りの旅… ディジョンの宝、文化と美食を楽しむ パリから電車で1時間30分

スポット 1

新設された美食の殿堂を満喫：ユネスコの世界遺産に登録されたフランスの美食と、ブルゴーニュのブドウ畑を紹介する新しい食の文化施設「シテ・ド・ラ・ガストロノミー・エ・デュ・ヴァン」(Cité de la Gastronomie et du vin)をお楽しみください。選りすぐりの食材店が並ぶシテの「美食の村」で、この地方の味を発見しましょう。

スポット 2

Musée des Beaux-Artsで文化を感じるひととき：ブルゴーニュ公爵家墓所 (Palais des Ducs et des Etats de Bourgogne) 内にあるボザール美術館。古代美術から現代美術まで膨大なコレクションを見ることができます。

スポット 3

フィリップ・ル・ボンの塔 (tour Philippe le Bon) の上へ：ブルゴーニュ公宮殿 (Palais des Ducs) を見下ろすフィリップ・ル・ボンの塔の頂上に登り、街を一望します。ノートルダム教会に立ち寄り、触ると願いが叶うと言われているディジョンのシンボル、フクロウの像を撫でてみましょう。



週末の旅… オセールとその周辺、ブルゴーニュ地方の美食を訪ねて— パリから列車で1時間30分

オセールは、ヨンヌ川 (l'Yonne) のほとりにある魅力的な小さな町。「芸術と歴史の町」(Villes et Pays d'art et d'histoire) のラベルを獲得しているオセールには、類まれなる建築遺産と、ブルゴーニュで代々培われてきた伝統の技でつくられるワインと地域の特産物の組み合わせに重きを置いた美食があります。

1日目

オセール：午後、街の中心にある三ツ星ホテルにチェックイン。ブルゴーニュ料理の夕食を堪能します。

2日目

ビュッフェ式朝食を楽しんだあとは、「芸術と歴史の町」ラベルを授与されたオセールの街を散策します。サン＝ジェルマン修道院 (abbaye Saint-Germain)、大聖堂、時計塔 (Tour de l'Horloge)、木組みの家が並ぶ小路をガイドの案内で巡るプライベートツアー。

3日目

ビュッフェ式朝食を楽しんだ後は、ブドウ畑へ出かけましょう。ピクニックをしながら、ワインの入門的なテイस्टینگと感覚分析のワークショップに参加し、ワインについて学び、理解を深めます。



旅のアイデア…

ブルターニュ地方 BRETAGNE

日帰りの旅…ブルターニュの玄関口、レンヌで過ごす一日 パリから列車で1時間30分

ブルターニュ地方の首府レンヌは、ダイナミックな学術・文化都市として知られています。心と理性がひとつに結ばれるレンヌは、のんびりと散歩を楽しむにも、親睦を深めるにも、驚きを味わうにもうってつけの街です。

スポット 1

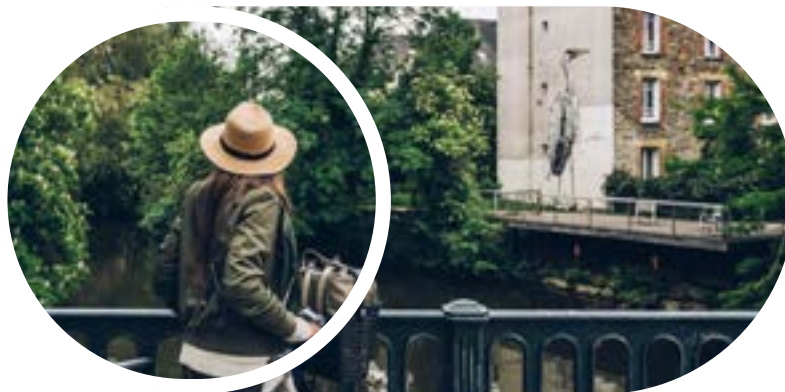
楽しいっぱいのマルシェ・デ・リス (Marché des Lices)：早朝から、リラックスしたひとときを過ごすもよし、眼にも身体にもおいしいものを小粋に楽しむのもよし。フランスでもっともすてきな場所のひとつである「マルシェ・デ・リス」は、色彩と風味が溢れる市場です。

スポット 2

レンヌの小道を散策：カフェやテラスがあり、美しく活気に満ちた、サン＝ソヴール通り (rue Saint-Sauveur)、シャピトル通り (Chapitre)、シャン＝ジャケ広場 (place du Champ-Jacquet)、サン＝ミシェル通り (rue Saint-Michel) などを歩き、つづいて17世紀に王室芸術がレンヌにもたらされたことを示す、荘厳でまばゆい建築のブルターニュ高等法院 (Palais du Parlement) へ。

スポット 3

タボール公園 (arc du Thabor) で深呼吸：フランス式庭園や植物園、みごとなバラ園、そしてカフェギャラリー「オランジュリー」(Orangerie) があるタボール公園で新鮮な空気を吸いましょう。



週末の旅…ヴァンヌ、モルビアン湾、ロリアン で過ごす週末：ブルターニュの魅力を凝縮 — パリから列車で3時間30分

パリから列車で3時間30分。ヴァンヌとロリアンという、異なる魅力を持つ2つの海辺の町を訪れ、旅に出かけましょう。

1日目

湾岸の窓ヴァンヌ：サン＝ピエール大聖堂 (cathédrale St Pierre)、中世の城塞、170軒もの木組みの家々が並ぶヴァンヌを訪ねます。町の中心に位置するヴァンヌのマリーナには、まさに航海の遺産と言うべき、年月を経た大型船が停泊しています。

2日目

モルビアン湾と地元の牡蠣養殖：ヴァンヌ玄関口あるモルビアン湾でカヤックに乗り、アクティブに水上散歩をしたり、養殖牡蠣の生産者のもとでブルターニュ産の牡蠣を味わったりと、海とのふれあいを楽しみましょう。

3日目

外洋航海の中心都市、ロリアンへ：かつてフランス東インド会社の中枢を担ったロリアンの街には、壮大な叙事詩の精神が育まれています。華やかな雰囲気と、大海原、生活美学、文化、独創的な美食が混在する街は型にはまらない魅力に溢れ、一見の価値ありです。



旅のアイデア… グラン・テスト地方

LE GRAND EST

日帰り旅行… メス、その遺産と自然とモダニズムのはざま

パリから電車で1時間20分

3,000年以上の歴史を持つヨーロッパの交差点、メス大都市圏は、創造的でサステナブルな destinations であり、緑豊かで親しみやすく、心ときめく驚きに満ちた場所です。日常を忘れ、ラベル「芸術と歴史の街」に指定されるメスを楽しみましょう。

スポット 1

牧歌的な散策：ボートに乗って水以上散歩を楽しんだり、モーゼル川 (la Moselle) 沿いの美しい遊歩道やいくつもの公園や庭園を歩いたり、あるいは緑道や複合施設を自転車で巡ったり。飾らないメスの街に出会えます。

スポット 2

市街地の建築鑑賞：ルネサンス様式、帝政ゲルマン様式、そして現代建築まで、メスの街はまるで青空の下の建築の辞書です。ローマ時代の浴場、中世の邸宅、18世紀の修道院など、さまざまな時代の建築物に組み込まれたクール・ドール博物館 (Cour d'Or) は、それだけで好奇心をそそります。またポンピドゥー・センター・メス (Centre Pompidou Metz) は、近現代美術に捧げられた芸術的な建築作品です。



週末の旅… ランスとシャンパーニュのブドウ畑 パリから列車で45分

世界でひとつだけの秘薬シャンパーニュが生まれた場所。シャンパーニュ地方では、その遺産や、ワインツーリズム、美食をキーワードとした、はじける泡のような胸躍る体験をお楽しみいただけます。

1日目

ランスの優雅なひととき：街の象徴である大聖堂を訪ね、珍しい建築が立ち並ぶブーラングランの屋内市場 (marché couvert Boulingrin) を散策します。ランスとその周辺にある一流のレストランやミシュランの星付きレストランで美食に酔いしれるひとときが、興奮と日常を忘れる旅をお約束します。

2日目

エペルネの一日：数々のシャンパーニュ・メゾンが立ち並ぶシャンパーニュ通り (avenue du Champagne) や、「シャンパーニュワインと地域考古学博物館」(musée du Vin de Champagne et d'Archéologie régionale) を訪ねます。

3日目

歴史あるブドウ畑、オーヴィレール、アイ、マルイユ=シュル=アイ：独立系のシャンパーニュ生産者がワインツーリズムのアクティビティで歓迎してくれます。



旅のアイデア… オクシタニー地方

OCCITANIE

日帰り旅行… 中世都市カルカッソヌの旅 ボルドーまたはマルセイユから列車で3時間

カルカッソヌの世界的な名声は、ユネスコに登録された、類まれなる城塞都市によるものです。おそらくヨーロッパ最大、且つもっとも保存状態のよい城壁都市は、映画の舞台としても多数利用されています。

スポット1

魅惑のカルカッソヌの虜になる：駅からオード川 (le fleuve Aude) のほとりに着くとすぐに城壁が見えます。心の底からの感動をお約束します！

スポット2

石畳の小道に迷い込む：城門をくぐり抜けて中世の町の石畳の道をさ迷い歩き、コンタル城 (Château Comtal) を訪ね、城壁の巡回路を歩き、バジリカ聖堂 (basilique) に向かい、その華麗なステンドグラスを鑑賞しましょう。



週末の旅… トゥールーズ、バラ色の街 パリから列車で4時間30分

ボルドーとマルセイユのオリンピック会場の間という理想的な位置にあるオクシタニーの首府、トゥールーズ。街の歴史地区からミディ運河 (canal du Midi) まで、のんびりと散策しましょう。

1日目

トゥールーズっ子のドルチェ・ヴィータ：ミディ運河に向かい、テラスでドリンクを楽しみながら、地元の人たちと和気あいあいとしたひとときを過ごします。若さと華やかな雰囲気に魅了されて心が躍ります！

2日目

縦横無尽に楽しむトゥールーズ：キャピトル広場 (Place du Capitole) から出発し、フランスで最も美しい市場のひとつである伝説的なマルシェ・ヴィクトル・ユゴー (marché Victor Hugo) やショッピング街を通り抜け、「メイド・イン・トゥールーズ」のお土産を探します。リフレッシュするなら植物園がおすすめです。

3日目

ミディ運河に沿いをゆく：アート劇団「ラ・マシーン」の機械仕掛けを展示している「アール・ドゥ・ラ・マシーン」(Halle de la Machine) では巨大なミノタウロスに出会えます。街の中心部に戻りつつ、ガロンヌ川のほとりを歩きます。夕日に輝くバラ色の街を眺めるのに最適な場所です！

トゥールーズ周辺での滞在の延長をご検討ならば、ぜひ1日10ユーロの「オクシタニー鉄道ツアー」(Occitanie Rail Tour) をご利用ください。



旅のアイデア…
ノルマンディー地方
NORMANDIE

日帰り旅行… バニョル・ド・ロルヌ
リラクゼーションとスリルを満喫
パリから列車で2時間40分

バニョル＝ド＝ロルヌは、環境、社会経済、文化の基準に基づいて観光地を表彰する国際ラベル「グリーン・デスティネーションズ」(Green Destinations) をフランスで初めて受賞した街です。

スポット1

ウェルビーイングとリラクゼーション：ノルマンディー＝メヌ地域自然公園に位置するすばらしい温泉の町バニョル＝ド＝ロルヌは、精を解放させ、心身のバランスを高める優雅なひとときに彩られています。健康とレジャーを求める旅人にとって理想的なデスティネーションです。

スポット2

アドレナリン放出のスリル：木立のなかを突き進むアクロバットコース、トレイルランニング、ハイキングなど、スポーツの初心者から万能な方に向けてさまざまなアクティビティがあります。



週末の旅… ノルマンディーの
コタンタン半島でのんびりサイクリング
— パリから列車で3時間

コタンタン半島の沼地、小さな港やビーチにでかけましょう。ユタ・ビーチや海洋博物館「シテ・ド・ラ・メール」(Cité de la Mer) など、その歴史的はもちろんのこと建築遺産も圧倒されます。

1日目

カラントゥン＝レ＝マレからユタ・ビーチへ：自転車の旅のはじまりはカラントゥン＝レ＝マレ駅から。ペダルを漕ぎだしてほどなくすると、美しいマリーナが現れます。「マレ・デュ・コタンタン・エ・デュ・ベッサン地域自然公園」(Parc Naturel Régional des Marais du Cotentin et du Bessin) を横切り、ベイス湾 (Baie des Veys) に向かいます。

2日目

ユタ・ビーチからサン＝ヴァー＝ラ＝ウーグへ：1944年6月6日にノルマンディー上陸作戦が行われた5つの海岸のひとつ、ユタ・ビーチまでペダルを漕ぎます。さらに進むと、大西洋の壁のドイツ軍砲台のひとつ、クリスベック砲台跡 (batterie de Crisbecq) があります。ケトゥ (Quettehou) の少し手前で、高台からサン＝ヴァー＝ラ＝ウーグが望めます。

3日目

サン＝ヴァー＝ラ＝ウーグからシェルブール＝アン＝コタンタンへ：雄大な風景と砂浜に沿ってシェルブール＝アン＝コタンタンに向かいます。シェルブールを訪れたら、海をテーマにした巨大な博物館「シテ・ド・ラ・メール」は必見です。



旅のアイデア… コルシカ CORSE

数日間の滞在 … コルシカ、スポーツでリフレッシュ

コルシカ島を自転車で走ってみませんか？ロードバイクにマウンテンバイクなど、お好みに合わせてあらゆる自転車の旅をお楽しみいただけます。冒険好きな方には、島の内陸部や山道のハイキングがおすすめです。海沿いのルートや村を横断するルートのハイキングでは、知る人ぞ知る道やまだほとんど踏み慣らされていない道が目の前に現れることもあります。

「美しい島」(Île de Beauté) と呼ばれるコルシカで2つ星または3つ星ホテルに4泊5日し、スポーツを楽しむ壮大休暇のアイデアをご紹介します。



1日目

バステア Bastia：オート＝コルス県の首府を訪ねます。歴史ある港は美しく、自由にアクセスできる城塞や旧市街からは、海と周辺地域の素晴らしいパノラマを望めます。

2日目

マシナッジオ Macinaggio：早朝、自転車に乗りD80道路をマシナッジオ方面へペダルを漕ぎましょう。海岸沿いを35kmほど走り、セラ峠 (Col de la Serra) を東から西へ渡ります。島の反対側に、海岸線と美しい崖が見えてきます。ジェノヴァの塔 (tours génoises) やパオリネの塔 (tours paolines) といった、かつての監視塔がいくつもルートに点在し、小さな漁港のある海辺の風景は息をのむような美しさです。

5日目

出発前に最後の朝食をお楽しみください。

3日目

サン＝フロラン Saint-Florent：ビーチときれいなマリーナがあるサン＝フロランの町は、一日サイクリングをした後に散歩したり、リラックスしたりするのにおすすめの魅力的な場所です。あるいは再び自転車にまたがり、テギム峠 (Col de Teghime) へのルートを進むのもいいでしょう。

4日目

再びバステアへ：サン＝フロラン湾 (golfe de Saint-Florent) を後にし、ネビュ (Nebbiu) を横断してバステアへ戻ります。選択するルートによって1つから3つ峠を越えます。途中、パトリモニオ村 (village de Patrimonio) に立ち寄り、テギム峠を経てミュラト (Murato) とビゴルノ峠 (col de Bigorno) に至ります。



フランス観光開発機構 プレスお問い合わせ

CONTACTS PRESSE ATOUT FRANCE

フランス FRANCE

LAURA SOLA
laura.sola@atout-france.fr

スイス SUISSE

CÉCILE KABA
cecile.kaba@atout-france.fr

イタリア ITALIE

BARBARA LOVATO
barbara.lovato@atout-france.fr

イギリス ROYAUME-UNI

MARINE TESTE
marine.teste@atout-france.fr

RACHEL JOHNSTON
rachel.johnston@atout-france.fr

ドイツ ALLEMAGNE

MARIE HAAS
marie.haas@atout-france.fr

ベルギー BELGIQUE

ANNEMIE DECOMMER
annemie.decommer@atout-france.fr

オランダ PAYS-BAS

SANNERIEN VAN AERTS
sannerien.van-aerts@atout-france.fr

スペイン、ポルトガル

ESPAGNE ET PORTUGAL

VALÉRIE WATINE
valerie.watine@atout-france.fr

SÉBASTIEN GRENET
sebastien.grenet@atout-france.fr

日本 JAPON

増田 真由美
MAYUMI MASUDA
mayumi.masuda@atout-france.fr

中国 CHINE

CATHERINE ODEN
catherine.oden@atout-france.fr

韓国 CORÉE DU SUD

SEONJU PARK
seonju.park@atout-france.fr

アメリカ USA

MARION FOURESTIER
marion.fourestier@atout-france.fr

KATE SCHWAB
kate.schwab@atout-france.fr

ラテンアメリカ

AMÉRIQUE LATINE

IZABÈLE PESINATO
izabele.pesinato@atout-france.fr

オーストラリア、ニュージーランド

AUSTRALIE ET NOUVELLE-ZÉLANDE

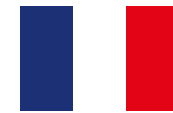
SOPHIE ALMIN
sophie.almin@atout-france.fr

カナダ CANADA

MÉLANIE PAUL-HUS
melanie.paul-hus@atout-france.fr

写真クレジット：©Mathieu Lassalle - ©Hauts-de-France Tourisme / ©Anne-Sophie Flament / ©Xavier Renoux / ©Stéphane Bouilland / ©Vincent Colin / ©Marc Vidal / ©Jean-Louis Aubert / ©Nicolas Bryant / ©L'Échappée Bière - ©Claire Cellier - ©D.Darrault - ©Jeremie Bellot - ©Pnr_Landes_de_Gascogne_CRTNA - Ainhoa@Alban_Gilbert-CRTNA - «Vélo dans les vignes@Best_jobers-CRTNA» - La Cité du Vin et le Sicambre / Myles Gilbert - ©OT Marseille - ©Marchand.C - ©Nice Event App - ©Tahiti Tourisme - ©Tahiti Tourisme_Frédéric Cristol / Grégoire Le Bacon / Stéphane Mallion Photography / Frédérique Legrand_baleine / Michael Runkel_Fakarava / David Kirkland / Massimiliano Cinà / Steve Dickinson / Manea Fabisch / Hélène Havard / Tahiti Fly Shoot / ©Alain Leprince M.A.I.A.D Roubaix - ©Laurent Javoy - ©Mathieu Lassalle - ©Agence - Les Conteurs - ©Guillaume Chevalier Photographe + © Franck Toms - VAN + ©Martin Argyrolo - L'VAN - ADAGP, Paris 2018 - ©FrenchWanderer - ©DDarrault - ©MaxCoquart_BestJobers - ©UnMondeAVelo - ©OlivierMarchand - ©Benjamin Steimes - Abbaye St Savin ©ATV-CRTNA - Phare_de_Cordouan Gironde ©BROCHARD-CRTNA - Place de la Bourse + Vincent_Bengold_011 - Place du Palais@Nicolas Duffaure - Terro-Aventur@Laurencon-CRTNA - ©Nico Prosperfun - ©Musée National du Sport / ©La Table du Clarence - ©Grand Scène - ©LVAN / ©M. Chaigneau et © A. Lamoureux - DDarrault - Clazi - ©cherrystone - ©Vincent_Bengold - ©nmQTCM - ©LamyOTCM - ©J.Kelagopian OTMNCA - ©Un Monde à Vélo - ©Région Pays de la Loire - S. Dacher - MaxCoquart_BestJobers - JFSoucard_CanoeCompany - FrenchWanderers - AlexandraLeconte_ADTOuraine - Duguet - Surf@BROCHARD-CRTNA - VTT ©M_Turin-CRTNA - Kayak Vallée Dordogne@Les_Droners-CRTNA - Randonnée GR10 Col de Tortes ©AADT64-Gaillard-Munsch - Vélo ©Alban_Gilbert-CRTNA - Canoe_eaux_vives Gave - Pau@BROCHARD-CRTNA - Stade_d_eaux_vives Pau@MAUFROID-CRTNA - ©Guillaume Ruoppolo - ©IRONMARN OTMNCA - ©NÜ - Mathieu Lassalle - ©incant Lecigne - © Martin Vangaeveren - ©La Véloodyssée Aurélie Staph-porteurdesonges.com - © David Gallard - Clack - ©EVandenbroucque - ©CMouton - ©NWietrich - ©Pashrash - ©Brive Festival - Les_fetes_de_Bayonne@B_Bloch-CRTNA - Boites de nuit ©I.boat - Guinguetre@Nicolas Duffaure - ©Delta Festival Steve KGT - ©Delta Festival radu casneanu - ©J.Kelagopian OTMNCA - ©M. Chaigneau - ©Maxime Guillou_Sarthe Développement - ©E.Caracciolo - ©LeMuller - ©ADTI - ©CavesAmbacia - ©LezBroz_TeddyVerneuil - ©UnMondeAVelo - Abbaye de La Sauve Majeure@BROCHARD-CRTNA - Vignes de l'Entre-deux-mers@Gironde Tourisme David Remzeilles - Marais poitevin@Studio-Francois-CRTNA - Venise verte barque Marais poitevin@FROCH-CRTNA - ©GECF - ©Mouton.A - ©T. Verneuil/LEZBROZ-LBS1 - ©crtb - BestJobers - ©ART GE - Pierre Defontaine - toutes les autres photos - ©BOEGLY+GRAZIA - photos pressoria - Jochen Tack - Jérémy May/Lorraine Tourisme - Bords de Garonne@P_THEBAULT_CRTLOccitanie.jpg - Prairie_des_Filtres@Villedetoulouse-P_Nin.jpg - Place du Capitole - ©Arnaud Spani OT Toulouse.jpg - La Garonne@P_THEBAULT_CRTLOccitanie.jpg - Carcassonne@G_DESCHAMPS CRTL Occitanie.jpg - Hotel de la Cité@DR_Spatule Prod-Hotel de la Cité.jpg - Hotel de la Cité@DR_Spatule Prod-Hotel de la Cité.jpg - Cap_Corse@Europeactive - Corse_Calvi@Europeactive - Corse_Murato@Europeactive - Corse@Europeactive - ©SOLIDEO - Métropole du Grand Paris - ©AGP - ©Arthur Crestani - ©CRT IDF / ©Tripelon-Jarry / ©Rb / ©Taylor-Smith / ©Julia Brechler - ©Maëlle de Lajartre - ©ENTZMANN - ©Julien Dorchene - ©Tripelon-Jarry

Explore France™



**A T O U T
FRANCE**
France Tourism Development Agency
IN ASSOCIATION WITH

